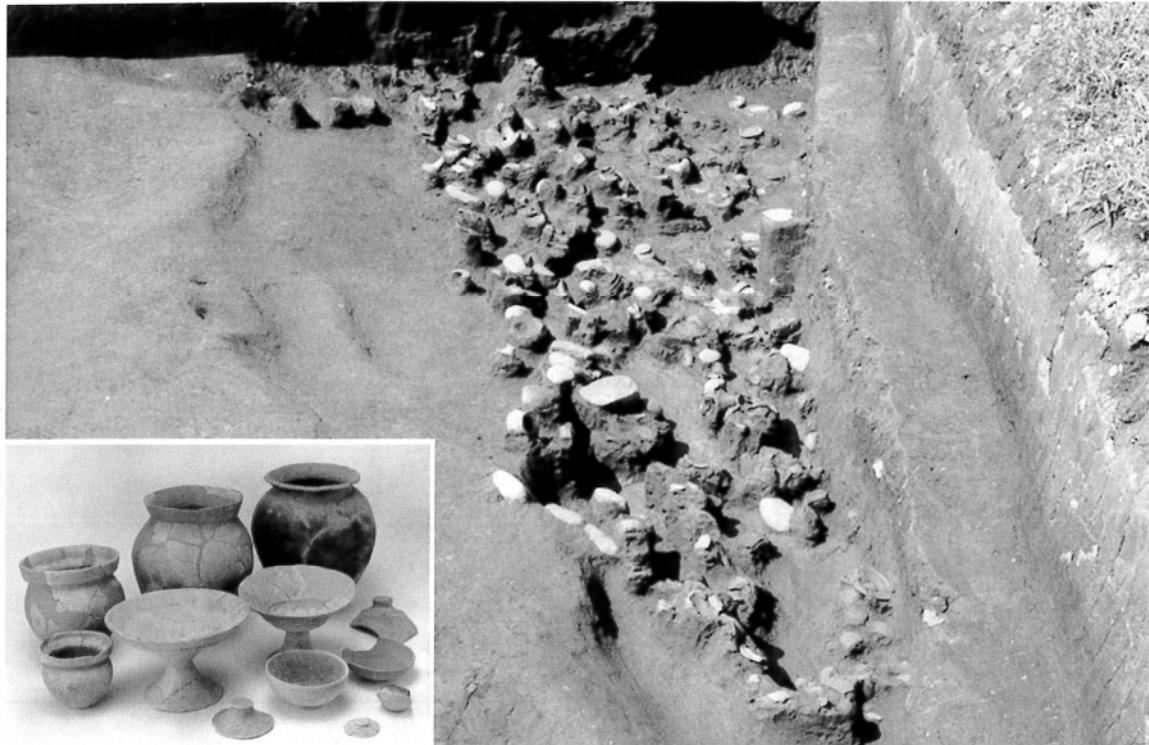




富山市の遺跡物語



とみさき
富崎遺跡の川跡から出土した弥生土器

富崎遺跡は、弥生時代終末期（約1800年前）から中世（約500年前）まで断続的に営まれた集落跡です。今年度の調査で、集落の北側に川跡があったことがわかりました（調査の詳細はP5参照）。

写真は、川跡から出土した弥生時代終末期の土器とその検出状況です。古墳時代から室町時代の土器や木製品も出土していますが、最下層から出土した弥生土器が最も豊富です。弥生土器は川の斜面付近からまとまって見つかりました。15m²足らずの狭い範囲から出土した土器は、遺物収納箱30箱分にもなります。南側に竪穴住居のある居住域があり、そこから不要になった土器が廃棄されたと考えられます。

出土した弥生土器は同じ層に含まれており、短期間のうちに捨てられたと考えられます。煮炊きに使う甕や貯蔵用の壺といった生活に使う土器と、底に孔の開いた土器や赤く塗られた土器など祭りに使う土器が混じっています。日常用の土器と祭り用の土器を使用後に同じ場所に捨てていたのでしょうか。

居住域から見つかった土器に比べ、川跡から出土した土器の量がきわめて多いため、ここに土器を捨てるということが集落の人々の共通意識になっていたと推測されます。あるいは、この場所に捨てるに祭祀的な意味があった可能性もあります。

（野垣好史）

北代縄文広場この1年 -2007年度-

縄文畑でジャンボかぼちゃ・サツマイモ・冬瓜など収穫！

7~9月

今年度、そば作りは連作すると収穫量が激減するので、そば畑を1年休耕することにしました。その代わりに縄文館東側の畑で地元長岡自治振興会の有志の皆さんによってジャンボかぼちゃなどが栽培されました。

夏から秋にかけてたくさんの収穫があり、月に数回開催されている縄文朝市での販売も行われました。

ジャンボかぼちゃの重さを当てるクイズ大会が実施され1ヶ月の間、約800人の方が挑戦され、3名の方がぴったりと重さを当て、景品の冬瓜をお持ち帰りになりました。



縄文畑に実ったジャンボかぼちゃ
(重さ58kgもありました。)

1号竪穴住居床面修復作業(床タタキ)を実施！

6~12月

復元した竪穴住居内の保存環境を調査することを目的に、名古屋工業大学宮野秋彦名誉教授指導のもと1号竪穴住居の床面を土間化し、吸放湿特性を高めるための床タタキ作業を実施しました。

①現状の床面を5cm程ジョレン鍬などで削り取り、②近くの発掘現場から採取した赤土(火山灰土)を十分乾燥させ、胴突やカケヤで細かくし、③事前に実験した結果に基づく配合比をもとに重量を計算しながら赤土に消石灰、砂、(消し炭)、水の順で混和する。④厚さ5cm程度に鍬などで敷きならす。⑤胴突やカケヤなどにより締め作業、特製コテによりタタキ仕上げを行いました。

水の配合量が規定量を外れ砂が不足すると、混和時にダマが発生し、タタキ締めが不十分になりました。水を規定量にしたところ、ダマの発生が少なく、水分も細部に行き渡り、タタキ作業が軽減され十分な締め固め効果が得られました。仕上げ時には水分が浮き出して光沢が生じ、乾燥して床の完成となります。



胴突によるタタキ締めのようす

「悠久の森2007」連携事業 夏季企画展「縄文人の精神文化」・縄文冬まつり 開催

7~1月

今年の「夏季企画展」と「縄文冬まつり」は、富山市ファミリーパークを主会場に開催された呉羽山丘陵に新しい里山をつくり出す運動「悠久の森2007」連携事業として開催されました。

「夏季企画展」は新富山市誕生2周年を記念し、第二の道具とも呼ばれる石棒・石冠を取り上げ「縄文人の精神文化」について考える展示を開催しました。妙川寺遺跡(八尾地域)出土の長さ1m近い大型彫刻石棒などに注目が集まっていました。

一方、今年の地元自治振興会主催の「縄文冬まつり」は従来の左儀長・もちつき・bingoゲームに加えて、的あてゲームやファミリーパークの協力を得て、「縄文鍋(いのしし鍋)」が振舞われました。「縄文鍋」は大人気で450食分用意されましたが、あっという間になくなりました。



夏季企画展のようす



縄文冬まつりのようす

王塚・千坊山遺跡群国指定記念事業「婦負の国 弥生フォーラム」

特別講演・フォーラム

2007.10.28(日) 13:00~16:00

神保地区コミュニティセンターにて、王塚・千坊山遺跡群国指定記念「婦負の国弥生フォーラム」を開催し、県内外から70名を超える参加者がありました。当日のプログラムは次のとおりです。

□特別講演 「墳墓から王権の成立を読み解く

—東アジアにおける王位の継承と王陵の形成—

講 師 岡村秀典氏（京都大学人文科学研究所教授）

□フォーラム

第1部 【事例報告】

越後 : 橋本博文氏

加賀・能登 : 伊藤雅文氏

越中 : 小黒主任学芸員

第2部 【討論】

「婦負のクニ成立のころ

—四隅突出型墳丘墓から前方後方墳へ—

司 会 高橋浩二氏（富山大学人文学部）

パネリスト 橋本博文氏（新潟大学人文学部）

伊藤雅文氏（財団法人 石川県埋蔵文化財センター）

小黒主任学芸員（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）

□展示 「富崎遺跡」出土遺物の展示

今回のフォーラムでは、北陸各地域の弥生時代の墓制から古墳時代の墓制への変遷と、中国の王陵の事例を取り上げて、その比較を通して婦負のクニの成立を探りました。

特別講演では、岡村秀典氏が「墳墓から王権の成立を読み解く 一東アジアにおける王位の継承と王陵の形成」と題して発表されました。

中国における王位の継承は、祖先祭祀によって系譜を確認し王位を正統化する必要があり、埋葬祭祀と祖先のまつりを分けている。

日本では古墳の築造を祖先靈のまつりとみなしており、埋葬儀礼と祖先祭祀を混同していること、また、弥生時代終末から古墳時代初めの日本国内の墳墓の鏡の出土例から、弥生時代の墳墓には中国鏡が副葬されないが、古墳のつくられる時代になって中国鏡が副葬される、と指摘されました。

フォーラムでは、各地域の弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓の状況が橋本（越後）、伊藤（越前・加賀）、小黒（越中）の各氏から報告されました。

その後、高橋浩二氏を司会とした討論では、3人の講師により各地域の古墳の始まり、各地域の首長（王）の統括範囲、地域間の交流の可能性などが検討されました。

また、会場近くの富崎遺跡の発掘調査で出土した遺物の展示も行いました。



特別講演（岡村秀典氏）



フォーラム2部【討論】の様子

発掘速報

どがわ 土川右岸に営まれた集落

若竹町遺跡は、神通川に繋がる熊野川支流土川右岸の扇状地上（標高36m）に立地します。

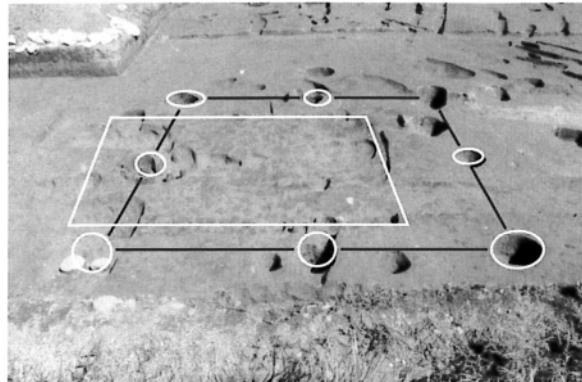
弥生時代（約1800年前）には堅穴状土坑1基などがみつかりました。堅穴状土坑は、床面が平坦であり、堅穴住居ではないかと考えられます。中から弥生土器、打製石斧、砥石が出土しています。砥石の表面には鉄器を研いだ跡が確認できます。

平安時代（約1200年前）には堅穴住居1棟、
掘立柱建物1棟、畑跡がみつかりました。掘立

柱建物は堅穴住居を廃棄した跡に建てられています。建物の東側には、畑跡と考えられる方向の異なる数条の溝が確認されており、何度か作り変えていることが分かります。

鎌倉時代（約800年前）には掘立柱建物がみつかりました。柱穴からは中世の土師器が出土しています。

土川右岸には、本遺跡の北東600m～1kmに縄文時代から近世まで続く集落遺跡である吉岡遺跡・経力遺跡などがあり、本遺跡を含め土川のほとりでは古くから人々が生活を営む環境があつたと考えられます。



平安時代の堅穴住居・掘立柱建物

谷間の微高地を利用した集落

富崎遺跡は山田川右岸の平野部（標高約26m）に立地する弥生時代終末期～近世の複合遺跡です。本遺跡西側0.4kmの富崎丘陵には、富崎墳墓群や富崎千里古墳群、富崎城跡などがあります。

1. 平安時代の集落（約1200年前）

2棟の掘立柱建物がみつかりました。建物のうち1棟は周囲と中央に柱をもつ総柱建物で、倉庫と考えられます。平安時代の建物の可能性があります。

また、北西～南北方向に伸びる畑跡と推測される溝が7条確認されています。

2. 室町～戦国時代の集落（約600年前）

調査区北西に位置する池は底部に川原石が敷き

詰められ、遺構側壁には護岸を囲むように杭が刺さっていました。池から中世の土師器・珠洲・炉壁片（壊れた製鉄炉破片）等が出土しています。

その東側には方形の堅穴状土坑があり、板状木製品や川原石が出土しました。石は意図的に配置されたようにもみえます。出土遺物は熱を受けた痕があり、作業場とも考えられます。

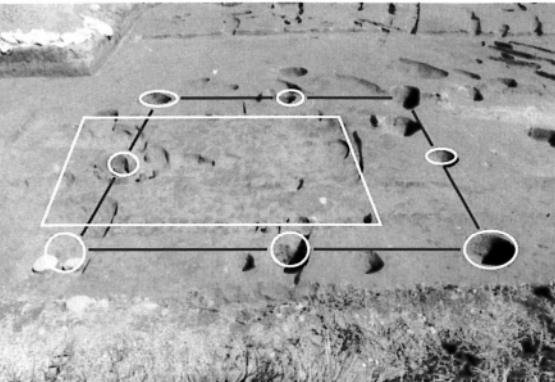
3. 製鉄関連遺物の出土

中世遺構周辺で炉壁片が出土しました。「富崎城の城下町には、戦国時代、鍛冶屋の集団が住んでいたという伝説がのこっている（注1）」とあり、近世には富崎鑄物師（溶かした金属を鋳型に流し込み製品を作る職人達）の存在が真継家文書に記されています。今回の調査区付近ではこれらの前身となるような鍛冶に関わる作業が行われていたと推測されます。

（鍋谷仁美）

（注1）佐伯哲也 1991「富崎城星群の変遷」『大境』第13号 富山考古学会

わかたけちょう 若竹町遺跡



平安時代の堅穴住居・掘立柱建物

とみさき 富崎遺跡



調査区全景

詰められ、遺構側壁には護岸を囲むように杭が刺さっていました。池から中世の土師器・珠洲・炉壁片（壊れた製鉄炉破片）等が出土しています。

その東側には方形の堅穴状土坑があり、板状木製品や川原石が出土しました。石は意図的に配置されたようにもみえます。出土遺物は熱を受けた痕があり、作業場とも考えられます。

3. 製鉄関連遺物の出土

中世遺構周辺で炉壁片が出土しました。「富崎城の城下町には、戦国時代、鍛冶屋の集団が住んでいたという伝説がのこっている（注1）」とあり、近世には富崎鑄物師（溶かした金属を鋳型に流し込み製品を作る職人達）の存在が真継家文書に記されています。今回の調査区付近ではこれらの前身となるような鍛冶に関わる作業が行われていたと推測されます。

（鍋谷仁美）

（注1）佐伯哲也 1991「富崎城星群の変遷」『大境』第13号 富山考古学会

弥生時代から中世の暮らしと環境

とみさき
富崎遺跡

1. 調査のあらまし

富崎遺跡は山田川右岸の平野に位置し、すぐ西には丘陵があります。弥生時代終末期（約1800年前）から室町時代（約500年前）まで断続的に営まれた集落であることがわかりました。また、集落の北側では川跡の一部とみられる窪地が見つかっています。

2. 弥生時代終末期の集落

富崎遺跡の中心となる時期です。3棟の竪穴住居が見つかりました。竪穴住居はいずれも方形で、一辺5m前後の大きさです。竪穴住居の1棟（写真）からは白玉という玉が出土したほか、玉を作るときに出てる緑色凝灰岩や鉄石英という石の破片も見つかりました。川跡からは筋砥石という玉を磨く道具も出土しています。集落では玉作りが行われていたのでしょう。



弥生時代終末期の竪穴住居

また、集落北側の川跡には多量の弥生土器が捨てられていました（表紙参照）。生活で不要になった土器を川に捨てたと考えられます。

富崎遺跡の西の丘陵には、四隅突出型墳丘墓と呼ばれる首長の墓（富崎墳墓群）があります。こうした首長を支えた人々が暮らす集落だったのかもしれません。

3. 西からもたらされてきた古墳時代の須恵器

古墳時代は、建物跡などはありませんでしたが、須恵器と呼ばれる土器が出土しました。須恵器は、それまでの弥生土器などと違い、窯を使って高温で焼くため作る場所が限られていきました。この須恵器に含まれる成分を調べたところ、大阪府堺市・岸和田市周辺の陶邑窯と石川県小松市二ツ梨殿様池窯で焼かれたことがわかりました。当時の越中ではまだ須恵器作りが定着していなかったため、他の地域からもたらされてきたのでしょうか。

4. 中世の集落

12世紀後半と15世紀後半～16世紀の2時期に集落が営まれていたようです。

12世紀後半は、掘立柱建物2棟と井戸があります。井戸からは、クルミ、クリ、トチ、ソバ、ナス、ヒエなどの種実が数多く出土し、多様な食物を利用していたことがわかります。また、山田川を挟んだ北の長沢と呼ばれる地区は、古代・中世を通して婦負郡の中心地でした。12世紀後半には長沢氏がここを支配拠点とします。富崎遺跡は、長沢の地に近く、彼らの拠点の一翼を担う場所であった可能性があります。

15世紀後半～16世紀は、青磁や青花といった陶磁器のほか、取瓶や鉄滓という製鉄に関わる出土品がありました。この時期、西の丘陵上に神保氏が拠点とした富崎城が築かれます。富崎城にかかる集落であった可能性があります。

5. 稲作の痕跡

集落の北側で見つかった川跡には弥生時代終末期の土器が多量に捨てられていましたが、川跡にたまつた土を調べるともう一つ重要な成果が得られました。プラント・オペールというイネの痕跡が高密度で見つかったのです。このことは弥生時代終末期から室町時代まで近くで稲作が行われていたことを示しています。現在も調査地周辺は大規模な穀倉地帯で、その基盤が弥生時代にはすでにあったのかかもしれません。（野垣好史）

古代婦負郡の官営工房

北押川B遺跡・北押川C遺跡・御坊山遺跡

北押川B遺跡・北押川C遺跡・御坊山遺跡は境野新扇状地（標高約30～38m）に位置し、東から南に呉羽山丘陵を、西に射水丘陵を望みます。現在は、圃場整備によって平坦地形となっていますが、かつては小さな谷がいくつかあり、遺跡は谷と谷の間の小丘陵に形成されていました。北陸自動車道富山西インター（江守）周辺では近年、発掘調査が多く行われ、特に平安時代（約1200年前）の様相が明らかになってきました。

1. 平安時代前史

北押川B遺跡では旧石器時代（約20000年前）のナイフ形石器のほか、縄文時代中期（約5500年前）の土器や玉斧形垂飾が、北押川C遺跡では縄文時代前期（約6000年前）の土器が出土しており、当時からこの地が人々の生活の場であったことがわかります。

2. 平安時代の様相

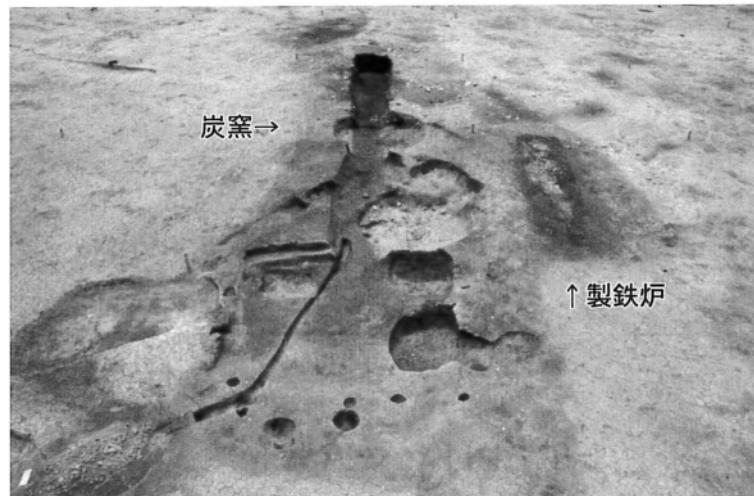
北押川B遺跡では製鉄炉・炭窯・土師器焼成坑・製炭土坑といった生産遺構のほか、掘立柱建物群が確認され、鍛冶滓・鍛造剥片・羽口などの鍛冶関連遺物も出土しています。このことから、遺跡内では鉄素材作りから製品化までの作業が一貫して行われていたことがわかります。鉄素材作りに必要な大量の木炭のほか、調理・暖房などの日常生活や鍛冶炉の燃料用としての木炭も作っていました。他にも、成形した土師器（食器）を焼成していました。

倉庫と推定される掘立柱建物も認められることから、遺跡内で原材料や完成品を保管していたと考えられます。

北押川C遺跡では製炭土坑が確認され、木炭を作っていたことがわかりました。隣接する道路（主要地方道新湊平岡線）部分でも製炭土坑が調査されています。

御坊山遺跡では土師器焼成坑が確認されたほか、流路から製錬滓や鍛冶炉用の羽口が出土しました。調査地近傍で製錬・鍛冶作業が行われていたことがわかります。

調査地から南西約400m地点では、奈良時代の製鉄炉や炭窯が発掘調査で確認されており、本遺跡では奈良時代～平安時代に鉄素材・鉄製品・木炭・土師器が生産されていたことがわかります。



北押川B遺跡の製鉄炉と炭窯（北から）



北押川B遺跡の掘立柱建物（倉庫）

3. 北押川B遺跡・北押川C遺跡・

御坊山遺跡の歴史的意義

これらの遺跡が所在する境野新扇状地は古代越中国婦負郡に位置し、製鉄・製炭・製陶（土師器・須恵器生産）といった奈良～平安時代の生産遺跡が多数確認されています。限られた時代に、そして境野新扇状地という特定の地域に各種生産遺跡が集中した背後にどのような歴史があったのか、その謎に迫るための手がかりが、周辺遺跡の発掘調査などで得られています。

(1) 向野池遺跡の発掘調査成果

北押川B遺跡に近接する向野池遺跡では、生産遺構の近くに平安時代の大型掘立柱建物群が確認されています。このうち1棟は、北・南・東の3面に廂が付くのが特徴です。東西6間（廂を含めて約15m）、南北2間（廂を含めて約9m）で、建物面積は約136m²（約82畳）ある大型建物です。柱穴からは、底部に「三」と記された須恵器の墨書き土器が出土しました。

富山県内の遺跡の発掘調査例から、廂が付く大型掘立柱建物は郡家（古代の郡におかれ役所）・荘園など公的な遺跡に設けられることがわかります。このことから、この大型建物は婦負郡家により設置された、周辺に集中する生産遺跡群の管理施設と考えられます。

大型建物の隣にある4間（約15m）×2間（約5m）の長屋風の掘立柱建物では鍛冶作業が行われていました。管理施設のすぐ傍でも鉄製品が作られていたのです。

(2) 境野新扇状地の古代生産遺跡群の性格

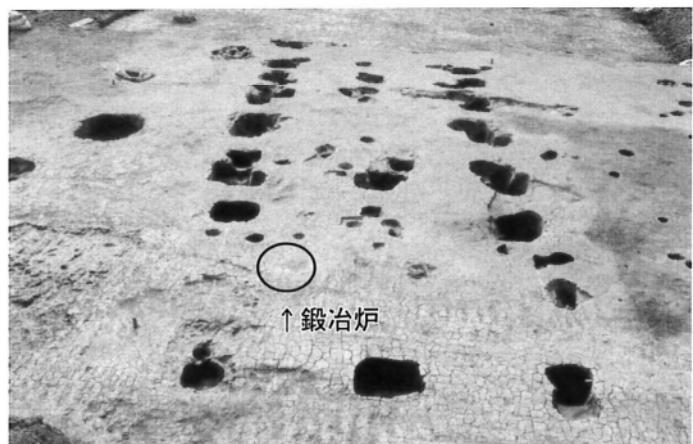
下野国府（栃木市）では、異筆「都可郷進一荷口 檢領（藤）所返抄 郡雜器所 申送」と記された木簡が出土しています（注1）。奈良～平安時代は、律令制による中央集権社会の構築を意図した中央政府によって、国府や郡家を介した地方支配が目指されました。このようななか、郡の付属機関として「郡雜器所」が設置されていたことが、下野国府出土木簡の記述から浮かび上がってきたのです。郡雜器所の具体的な内容は不明ですが、言葉からは多様な手工業製品の生産拠点と想像できます。

境野新扇状地の古代生産遺跡群は、向野池遺跡を中心とした婦負郡家に属する官営工房と考えられます。婦負郡家の指示に応じて、さまざまな製品を生産していたのでしょう。生産遺跡群がこの地に集中したのは、①雜木などの燃料を確保しやすい丘陵に位置すること、②完成した製品の輸送の要となる古代の幹線道路が付近に存在したことにあったと考えられます。

（小黒智久）



御坊山遺跡 空中写真



鍛冶炉を伴う掘立柱建物

（3棟の掘立柱建物が重複している）

（注1）1987『下野国府跡VII 木簡・漆紙文書調査報告（本文、図版）』栃木県文化振興事業団

呉羽山丘陵北部の王権の象徴

百塚遺跡

1. 調査のあらまし

百塚遺跡は、富山湾から約4km内陸に入った神通川下流左岸の河岸段丘（標高約10m）に立地します。平成17・18年度の発掘調査で前方後円墳・前方後方墳各2基など、古墳時代前期の古墳群が確認された百塚住吉遺跡の南側に隣接します（写真1段目）。

百塚遺跡の発掘調査では、大小さまざまの方墳が5基見つかりました。盛り土や埋葬施設はすでに失われ、周溝のみが確認されました（写真2段目）。

手前の方墳（一辺約14m）は古墳時代前期（約1700年前）のものです。周溝の中には、埋葬儀礼に使われた赤い土器が転落していました（写真3段目）。

道路際のお墓の周溝からは、本来は棺に供えられた副葬品と考えられる鉄鎌が出土しました（写真4段目）。柳葉形をしており、貫通力が高い武器でした。最先端の鉄製武器がもたらされていることは、百塚遺跡を残した集団が、その流通網のなかにいたことを示します。

2. 呉羽山丘陵北部の王権の象徴

当地は呉羽山丘陵北部に位置します。ここから神通川・井田川を約7km溯上すると呉羽山丘陵南部の杉谷A遺跡・杉谷古墳群・呉羽山丘陵古墳群の真際に、さらに7kmほど井田川・山田川・赤江川を溯上すると羽根丘陵の王塚・千坊山遺跡群の至近に辿り着くことができます。呉羽山丘陵南部や羽根丘陵には四隅突出型墳丘墓や大型前方後方墳があり、弥生時代後期（約1900年前）～古墳時代前期にかけて有力な王権が成立していたことがわかります。

同時期に築かれた百塚住吉遺跡・百塚遺跡の古墳群には、羽根丘陵に存在しない前方後円墳が含まれています。このことは、呉羽山丘陵北部の百塚周辺にも有力な王権が成立していたことを物語っています。神通川や日本海を通じた他集団との交流によって、最先端の道具や、リーダーを古墳に埋葬する思想などが、この地にもたらされたと考えられます。

（小黒智久）



空中写真（北から、神通川（左上）の手前の林は牛ヶ首神社）



姿を現した古墳群（南から）



埋葬儀礼に使われた土器（矢印部分の拡大：周溝内）



周溝から出土した鉄鎌

絵図に描かれた幕末期の水路跡

とやまじょうあと
富山城跡

1. 調査のあらまし

現在、進められている富山城址公園の整備に伴って、平成14年度から公園内で遺跡の有無を確認する試掘確認調査を行っています。これまでの調査で、絵図や文献だけからではわからなかった富山城の歴史が少しづつ明らかになってきています。

2. 絵図に描かれた水路跡

江戸時代以前、富山城のすぐ北は神通川が大きく蛇行して流れていきました。当時の川幅は約190mもあったようです。この神通川と城の周りをめぐっていた内堀の間には、築堤（土手）が存在していました。

本丸北西側の築堤の調査で、地下約2mの場所から川原石を敷いた遺構が見つかりました（写真）。幕末期の絵図を見ると、ちょうどこの位置に内堀と神通川を結ぶ水路が描かれています（絵図の点線部分）。このことから、検出した石はこの水路の一部と推定されました。石は水路の底面や壁面を護岸するものと考えられます。

絵図から判断すると、水路の規模は幅2~3m、長さ25~30m程度と考えられます。雨などで内堀の水が一定量を超えたときに、神通川へ排水していたのでしょうか。

この水路は、幕末期～明治20年代半ばに描かれた3枚の絵図にのみ認められます。したがって、存続期間はおおむねこの時期と考えられます。

ちなみに明治25年の市街図や明治40年頃に撮影された写真には、この水路の東約160mの地点に別の水路らしきものがあることが認められます。このことから明治20年代半ば頃に東側へ水路が付け替えられた可能性があります。

3. 築堤の変遷と規模

本丸北側の築堤の調査では、築堤の構造や変遷が明らかになりました。土の盛り方の違いから、江戸時代から明治時代まで3時期の築堤盛土があることが推定できました。下部ほど古い時期の築堤盛土が残っています。神通川の洪水によって築堤の土が流出するたびに、上部に新たに盛土しなおしたようです。

明治時代の築堤は、神通川に下る斜面が石で護岸されていました。幕末期の絵図（上の絵図）にも築堤斜面に石を並べている様子が描かれており、発掘調査でそのことが裏付けられました。

平成16年度に反対側の内堀に落ち込む築堤斜面が確認されていることから、この場所での築堤の幅が約9.5mであったこともわかりました。
(野垣好史)



水路跡の石の護岸



水路が描かれた幕末期の絵図(部分)

(富山市郷土博物館蔵)

江戸期土壘下から室町期の館跡が

富山城本丸搦手石垣の南側には、かつて土壘が続いていました。石垣と土壘の境目は明治16年切り崩して富山県庁表門通路とされ、現在に至っています。旧千歳御門の移築に伴う新設石垣部分の発掘調査で、築城以前の遺構状況が次第にわかつてきました。

1. 江戸期土壘の基礎構造

搦手石垣から南へ延びる土壘の下部が、高さ約1.7mほど残存していました。この土壘はこれまでの調査成果から、富山藩初期（1660年頃）の築造とわかつています。

土壘の構造は、中央部を水平に積み、その後整形して両側の斜面部を築いています。中央上部は、堀側へやや傾斜をつけて厚く積んでいます。下部は粘土と砂礫を薄く交互に積む版築法により積み堅固にしています。基底面の中央は江戸以前に存在した窪地の影響でややくぼんでいます。

斜面部は、堀側は約40度の傾斜、西は砂礫を約30度の傾斜にし、厚く盛土しています。斜面部は戦国期以前の地層を削っています。

土壘基底面には、築造の際打ち込んだとみられる杭や丸太の跡が多数存在するほか、ゴミ捨て穴とみられる土坑や、壁の一部が高熱で焼けた溝も確認されました。

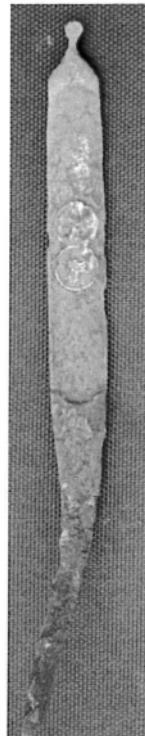
2. 室町期以前に窪地が存在

土壘下には、15世紀代（室町後期）に構築された溝状の窪地・井戸・大型土坑・壁面が焼けた土坑・溝等があります。

中央にある南北方向の溝状の窪地は、南に向かって深くなり、窪地の底面全体に木炭や灰が最大5cmの厚さで堆積していました。これらは樹木・草本類のほか、穀類（コメ・ムギ・ヒエ・アワ・マメ類）・植物種子、魚歯（タイ科）が含まれており、食事の残しのほか貯蔵食料が火災に遭い廃棄されたと考えられます。また赤漆椀や刀装具の笄も出土しました。

これらのことから、室町期には窪地北側に武家居館が構えられていた可能性が高いといえます。

室町前期頃には窪地周囲に水田の形成、平安時代（約1200年前）には大きな沼地が存在したことが確認されました。それらは弥生時代後期（約1800年前）から奈良時代の間に起こった神通川氾濫が契機となったことも判明しました。（古川知明）



室町後期の笄



土壘基底面直下の抗跡・土坑



木炭の堆積した室町後期の窪地

石垣が語る富山城の歴史（その2）

富山城石垣は、慶長10（1605）年加賀前田利長が始めて築き、その後富山藩初代藩主前田利次が寛文元（1661）年藩の居城として整備改修し、明治頃と戦後に大幅な改修を行い、現在に至っています。昨年度に引き続き本丸鉄門石垣1か所、本丸揚手石垣1か所を解体修理しました。

1. 石垣の断面からわかること

石垣の断面構造は、内部に土壘があり、積石の裏込には栗石と呼ぶ小さな川原石が詰められていました。栗石は排水や搖れを吸収するなど重要な役割をもっています。

本丸鉄門石垣の改修箇所は、慶長期に土壘であったところを富山藩初期に石垣造に変更した部分です。石垣の断面構造の観察から、この部分の石垣は大きく4期にわたる変遷があり、改修により堀側へ拡張した事実が明らかになりました。

1期は、土壘下半部で、慶長期の土壘部分（推定）。高さ3m。

2期は、土壘上半部の栗石と造成土が交互に重なる部分で、寛文改修期。

3期は、江戸～明治頃の西側栗石部分

4期は、明治以降近代の石積+薄い栗石部分

2. 墨書「織部」と「たけ一」



「口織部」の墨書

本丸揚手石垣の石材（花崗岩割石）から、人名とみられる墨書きが見つかりました。

「織部」は藩士とみられる人物の呼称で、文字の上には姓とみられる2文字の一部が残っていますが、割り取られて判読できません。

織部という名を探すと、前田利長に従って慶長10年富山へ来た家臣に篠原織部、富山藩初期の寛永16（1639）年に丹羽織部（千石）、三宅織部（御小姓）、江戸中期以降には岡崎織部、小塙織部、藤懸織部（町奉行）、吉田織部、磯野織部らがいますが、どの人物かは不明です。

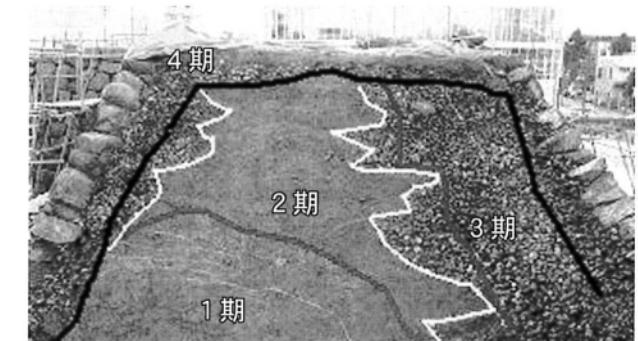
「たけ一」には名字がなく、石垣築造に携わった金沢穴生（石垣専門石工）とすれば、扶持人石切以下で、実際に石割・石積作業に携わった石工職人と推定されます。

いずれも石垣内部になる部分に書かれていることから、この2人は石垣築造あるいは改修に携わった人物であり、落書として書いたと考えられます。

「たけ一」の墨書



（古川知明）



石垣断面と変遷（本丸鉄門石垣）

上新保遺跡は、神通川と常願寺川の複合扇状地に位置し、常願寺川から神通川に流れ込む鼬川左岸に立地する古墳時代～近世の集落遺跡です。

1. これまでの調査（平成8年～10年）

古代(奈良時代～平安時代、約1300～1100年前)の堅穴住居跡119棟、掘立柱建物約25棟、畑跡、中世(鎌倉時代～室町時代、約850～500年前)の掘立柱建物約16棟、井戸、溝、古代の畑跡を検出しました。かなり大規模な集落であったと考えられます。

2. 今年度の調査

宅地造成に伴う調査で、中世の溝、穴、古代の堅穴住居跡17棟、畑跡、穴が検出されました。中世の珠洲等、古代の土師器(杯・甕・壺)、須恵器(杯・蓋・甕)、鉄製品(紡錘車)、鍛冶滓が出土しました。

堅穴住居跡は17棟中15棟で切り合いが確認され、何度もほぼ同じ場所で建物を建て替えられているのがわかります。調査区西側で検出された堅穴住居跡からは鍛冶滓が出土しており、鍛冶に関連する作業を行っていた可能性もあります。(堀内大介)



鉄製紡錘車出土状況

大山地域で分布調査を実施

分布調査

富山市域のうち分布調査が実施されていない地域について、18年度から6か年の予定で分布調査を進めています。2年目となる19年度は、富山市の南東に位置する大山地域(山間部を除く)を対象として分布調査を実施しました。

19年10月初旬から12月初旬まで約2か月かけて現地を踏査し、遺跡の所在確認や五輪塔など石造物の確認を行いました。踏査後には遺物採集地周辺での聞き取り調査や個人採集遺物の把握に努めました。

自然地形をみると、富山市の東側を流れる常願寺川沿いに形成された扇状地、河岸段丘、丘陵が東西に広がり、西側では神通川の支流熊野川沿いに台地や丘陵が形成されています。大庄、福沢、上滝、大山の4地区に分け、地区ごとに地形や田・畑の現況を確認し、遺物を採集しました。なお南半部の急峻な山間地については、他地域を含めて平成22・23年頃に調査を進める予定です。



分布調査の様子

採集した主な遺物にはナイフ形石器、剥片(旧石器時代)、縄文土器、石鏃、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石(縄文時代)、土師器、須恵器(奈良～平安時代)、中世土師器、珠洲、八尾、銅錢(鎌倉～室町時代)、越中瀬戸、瀬戸美濃、泥面子(江戸時代)などがあります。中大浦、牧野、大山上野、中地山、本宮などで新たな遺跡を14か所確認し、周知の埋蔵文化財包蔵地10か所の範囲を見直しました(P23参照)。大山地域の遺跡は82か所になりました。

調査成果については遺跡地図に掲載し、平成20年4月に公開します。

なお調査速報として、平成20年2月19日～5月6日に富山市大山歴史民俗資料館で企画展を開催し、主な採集遺物を展示しました。

(小林高範、小松博幸)

平成19年度埋蔵文化財センター事業

1 埋蔵文化財調査

●発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果	遺跡の種類
百塚 (201189)	松木	主要地方道富山八尾線 道路改良事業	1,300	弥生終方形周溝墓、古墳前前方後方墳、 古墳前方墳、中世～近世溝／弥生終土器、 弥生終鉄器、古墳前古式土師器、弥生終管玉	古墳、散布地
富山城跡 (201397)	本丸	城址公園石垣新設	140	江戸土壙、室町溝、室町井戸、室町土坑、 室町湿地、平安溝、平安湿地／弥生後弥生土器、平安土師器、平安須恵器、平安灰釉、 平安土錐、室町土師器、室町珠洲、室町八尾、 室町瀬戸美濃、室町青磁、室町白磁、室町笄、 室町漆器、室町砥石、室町炭化穀類、室町魚骨、 室町木製品、江戸土師器、江戸瓦、江戸越中瀬戸	集落、城郭
御坊山 (201460)	北押川	吳羽南部企業団地開発	2,391	平安土師器焼成坑、平安土坑、平安ピット、 平安自然流路／平安土師器、平安須恵器、 平安鉄滓、平安鉄製品	集落、その他生産遺跡
北押川B (201463)	池多	吳羽南部企業団地開発	6,688	平安掘立柱建物、平安炭窯、平安製鉄炉、 平安焼壁土坑、平安土師器焼成坑／旧石器ナイフ形石器、 旧石器彫刻刀形石器、繩文前期末～中期初繩文土器、 繩文晚期中葉繩文土器、繩文磨製石斧、繩文打製石斧、 繩文垂飾、平安土師器、平安須恵器、 平安墨書き須恵器、平安鉄滓	集落、製鉄、その他生産遺跡 (土師器焼成、炭窯)
北押川C (201466)	北押川	吳羽南部企業団地開発	2,286	古代焼壁土坑、古代土坑／繩文前繩文土器	集落、散布地
上新保 (201497)	本郷町	宅地開発事業	704	平安堅穴住居、平安烟跡、平安ピット、 中世溝、中世ピット／平安須恵器、平安土師器、 平安鉄製品（紡錘車）、平安小鍛冶滓、中世珠洲	集落
任海宮田 (201501)	任海	携帯電話基地局建設	45	掘立柱建物、ピット／古代土師器、古代 須恵器、中世珠洲、中世土師器	集落
若竹町 (201527)	悪王寺	個人住宅建築	275	弥生土坑、平安堅穴住居、平安掘立柱建 物、平安烟跡、平安土坑、平安ピット、 中世掘立柱建物／弥生土器、弥生玉未製品 (緑色凝灰岩)、平安土師器、平安須 恵器、平安鉄滓、中世土師器、近世陶磁器	集落
千坊山 (362029)	婦中町長沢	古環境調査	5	弥生不明遺構／弥生土器	集落、墓、散布地
富崎 (362050)	婦中町富崎	自己用住宅建築	108	平安掘立柱建物、中世土坑、中世池、中 世溝、古代溝／平安須恵器、平安土師器、 中正珠洲、中世土師器、中世瀬戸美濃、 中世青磁、中世木製品(板状・杭)、中世 炉壁、中世砥石、中世炭、中世焼、江戸 越中瀬戸	集落
富崎 (362050)	婦中町富崎	一般国道472号道路改 良工事	1,231	弥生終堅穴住居、弥生終土坑、弥生終溝、 室町掘立柱建物、室町井戸、弥生終～中 世窪地／弥生終弥生土器、弥生終鉄石英 石核、弥生終鉄石英剥片、弥生終綠色凝 灰岩、古墳後土師器、古墳後須恵器、古 代土師器、中世土師器、中世珠洲、中世 八尾、中世瀬戸美濃、中世青磁、中世白 磁、中世青花、中世取瓶、中世銅貨、中 世鉄滓、中世箸、中世木製部材、中世種 子、近世越中瀬戸、近世銅貨、不明蹄鐵、 不明杭	集落
鵜坂I (362132)	婦中町鵜坂	分譲宅地造成	128	平安土坑群、平安烟跡、平安ピット／平 安須恵器、平安土師器、平安土錐	集落
計 12 件			15,470.0		
18年度補遺(3月)					
砂川カタダ (201284)	東老田	自己用住宅工事	180	弥生後堅穴住居、弥生後掘立柱建物、 平安掘立柱建物／弥生後弥生土器、弥生後 管玉未製品、平安須恵器、平安土師器	集落

●試掘確認調査 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。*は立会調査

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
呉羽野田 (201006) *	呉羽野田	市道野田 2 号線道路改良工事	45	遺跡なし
打出 (201009)	打出	自己用住宅建築	496	遺跡なし
打出 (201009) *	打出	市道打出 8 号線道路改良工事	110	弥生終土坑、弥生終ピット／弥生終弥生土器
今市 (201010)	八町東	駐車場造成工事	1532	古代土師器、古代須恵器、近世陶磁器
今市 (201010)	布目	駐車場造成	156	縄文土器
今市 (201010)	布目	店舗兼個人住宅建築	961.98	遺跡なし
今市 (201010) *	布目	布目東排水路外改良工事	100	近世陶磁器
四方西野割 (201011) *	四方野割町	布目東排水路改良工事	48	遺跡なし
四方背戸割 (201015) *	四方荒屋	市道四方荒屋草島線道路改良工事	28	弥生溝、中世ピット、不明土坑（井戸か？）／弥生土器
大村城跡 (201025)	海岸通	社宅建築	2,041.65	遺跡なし
浜黒崎野田Ⅱ (201034)	野田	駐車場、運動広場造成	781	遺跡なし
平榎亀田 (201039) *	平榎	平榎排水路外改良工事	46	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (201044)	水橋辻ヶ堂	自己用住宅建築	312	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (201044) *	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂振動 6 号線道路改良工事	34	遺跡なし
水橋永割 (201048) *	水橋 中村栄町	市道水橋東部 1 号線道路改良工事	300	遺跡なし
水橋大正 (201054)	水橋大正	駐車場造成工事	961	遺跡なし
小出城跡 (201055)	水橋小出	サンクス水橋小出店駐車場拡張	762	遺跡なし
呉羽本郷 (201062) *	本郷中部	市道呉羽本郷 17 号線道路改良工事	50	遺跡なし
西二俣 (201067) *	中老田	市道中老田針原線道路改良工事	250	遺跡なし
東老田Ⅲ (201071)	東老田	自己用住宅建築工事	375	不明土師器、不明金属器
東老田 I (201073) *	東老田	特環呉羽第 3 処理分区第 7 工区下水管布設工	408	遺跡なし
吉作北IV (201089) *	吉作	市道吉作 35 号線道路改良工事	40	遺跡なし
小竹貝塚 (201105) *	高木東	新鍛冶川改良工事	1320	遺跡なし
八ヶ山A (201110)	八ヶ山	県営農免農道整備事業呉羽和合 4 期地区工事	5130	中世溝、中世ピット／縄文土器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世越前、中世八尾、中世青磁
百塚 (201188) *	宮尾	電柱移設	0.2	遺跡なし
百塚 (201189)	松木	主要地方道富山八尾線道路改良事業	1325	弥生方形周溝墓／なし
豊田中吉原 (201197)	豊田本町	アパート建築	910.27	弥生土器、江戸伊万里
飯野小百刈 (201205)	飯野	駐車場造成	587	江戸伊万里
中富居 (201206)	中富居	宅地造成工事	1,452.17	近世陶磁器
中富居 (201206)	中富居	アパート建設	1,920.95	遺跡なし
宮町 (201210)	宮園町	自己用住宅建設工事	312	弥生ピット、弥生溝、弥生土坑／弥生土器、古代土師器、古代須恵器
宮町 (201210)	宮園町	自己用住宅建築工事	313	弥生ピット、弥生溝／弥生土器
宮町 (201210) *	宮町	市道宮町 6 号線道路改良工事	7	道路跡（年代不明）／なし
宮成 (201216)	宮成	自己用住宅建築工事	264.47	遺跡なし
中野 (201220) *	水橋的場	市道水橋的場金屋新線道路改良工事	40	遺跡なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
新堀 (201223)	水橋新堀	自己用住宅建築	265	遺跡なし
金尾 (201228) *	水橋金尾	一般国道 415 号交通安全金平橋歩道橋下部工	91	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (201251) *	水橋中馬場	水田畦畝改良工事	32.5	中世溝／中世土師器
水橋金広・中馬場 (201251) *	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線道路改良工事	47.6	古墳周溝／なし
水橋上砂子坂 (201256)	水橋下砂子坂	自己用住宅建設(新幹線)	500	遺跡なし
水橋上砂子坂 (201256)	水橋下砂子坂	自己用住宅建築(新幹線)	650	近世溝／近世陶磁器
水橋上砂子坂 (201256)	水橋下砂子坂	自己用住宅建築(新幹線)	1,000	中～近世溝、中～近世ピット、中～近世土坑／中世珠洲、近世越中瀬戸、近世伊万里
水橋上砂子坂 (201256)	水橋下砂子坂	自己用住宅建築(新幹線)	1,200	近世陶磁器
住吉III (201314)	花木	資材置場造成工事	953	古代須恵器、不明磁器
富山城跡 (201397)	本丸	城址公園整備計画	50	中世ピット、近世石垣、江戸～近代築堤、江戸～近代水路跡／中世珠洲、中世八尾、中世瓦器、宝町～江戸かわらけ、江戸唐津、明治瓦、明治～昭和陶磁器、縄文土器
富山城跡 (201397) *	本丸	公園整備工事	5	遺跡なし
富山城跡 (201397) *	総曲輪	水道管・ガス管理設工事	15	肥前(江戸)、瓦(江戸)
池多東 (201465) *	池多	埋蔵文化財の有無の確認	3,600	平安須恵器、平安土師器
杉谷A (201478) *	杉谷	付属病院保育所建設	55	遺跡なし
黒瀬大屋 (201479)	黒瀬	資材置場造成	450	古代大溝(河川跡)／古代須恵器、古代土師器、古代木製品
黒瀬大屋 (201479)	黒瀬	共同住宅建設	1,107	古代大溝(河川跡)／古代須恵器、古代土師器
黒崎種田 (201480)	黒崎	倉庫建築工事	666	中世溝、中世土坑、中世ピット／中世土師器、中世珠洲
山室東田 (201487)	太田	自己用住宅建築	160.21	古代溝、古代土坑／古代土師器
太田中田I (201491)	太田	分譲住宅建築	316.19	中世土師器
上新保 (201497)	本郷町	分譲宅地造成工事	864	古代溝、古代ピット、古代土坑／古代須恵器、古代土師器
上新保 (201497)	本郷町	分譲宅地造成	7,412	平安堅穴住居、平安川跡、平安溝、平安土坑、中世土坑、中世溝、中世ピット／平安須恵器、平安土師器、中世鉄滓、中世土師器
任海宮田 (201501)	任海	携帯電話基地局新設	328	古代～中世溝、古代～中世ピット、古代～中世土坑／平安土師器、中世珠洲焼
吉岡 (201525) *	吉岡	農村集落排水事業(熊野地区)管轄施設工事	684	遺跡なし
若竹町 (201527)	悪王寺	自己用住宅建設工事	414	平安土坑、平安溝、平安ピット、平安焼壁土坑／平安須恵器、平安土師器
布市 (201537)	布市	自己用住宅建築工事	367.34	不明鉄滓
布市 (201537) *	南金屋	市道石田 8 号線道路改良工事	100	遺跡なし
布市 (201537) *	月岡町 6 丁目	市道上栄線道路改良工事	85	不明溝／古代土師器、近世磁器
栗山A (201558) *	栗山	市道惣在寺 2 号線道路改良工事	76	古代土師器、古代須恵器
上熊野 (201566) *	上熊野	配水管敷設替工事	15	瓦(明治)、板材(明治)
大井 (201574) *	大井	市道月岡大井線外 1 線道路改良工事	104	遺跡なし
大井 (201574) *	大井	農業集落排水事業(月岡南部地区)管路施設	963	遺跡なし
田伏・佐野竹 (201584)	水橋田伏	自己用住宅建築(新幹線関連)	667	遺跡なし
田伏・佐野竹 (201584)	水橋田伏	農機具倉庫設置(新幹線関連)	423	遺跡なし
田伏・佐野竹 (201584)	水橋田伏	神社参道移設(新幹線関連)	51	遺跡なし
金屋古屋敷 (201586) *	金屋	市道金屋 21 号線道路拡幅工事	131	遺跡なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
吳羽山古道 (201613) *	吉作	吉作配水管敷設工事	50	遺跡なし
春日 (301025)	春日	ホテル増築工事	4,280.78	縄文土器
春日長走 (301068)	春日	自己住宅用建築工事	233	遺跡なし
館本郷II (361068)	八尾町高善寺	経営体育成基盤整備事業	46,292	古代溝、古代土坑、古代ピット、不明川跡／古代須恵器、古代土師器、中世土師器、中世珠洲、中世瀬戸美濃、中世青磁、近世越中瀬戸、近世唐津、近世伊万里、不明磁器、不明木製品、不明鉄製品
水谷 (361080) *	八尾町水谷	公共下水道八尾町水谷地区管渠築造工事	357	遺跡なし
下邑 (362027)	婦中町小長沢	自己用住宅建設工事	495	遺跡なし
下邑東 (362042)	婦中町羽根	個人住宅建築	531	近世越中瀬戸
下邑東 (362042) *	婦中町羽根	上水道配水管敷設工事	153	遺跡なし
下邑東 (362042) *	婦中町羽根	上水道配水管敷設	141	遺跡なし
下邑東 (362042)	婦中町下邑	カーポート等建設	102	遺跡なし
富崎 (362050)	婦中町富崎	農機具倉庫建設	2,198	不明溝、不明ピット／古代須恵器、古代土師器、中世土師器、近世越中瀬戸
鵜坂I (362132) *	婦中町鵜坂	自己用住宅建設工事	83	遺跡なし
千里D (362142) *	婦中町千里	横円筒型耐震性貯水槽	91	遺跡なし
小長沢II (362146)	婦中町小長沢	自己用住宅建築	484	いぶし瓦(近世後期)
庵谷 (364014) *	庵谷	市道庵谷寺津線道路改良工事	581	遺跡なし
翠尾I・南部I (361065・362129)	婦中町高日附	区画整理工事	4,977	遺跡なし
計 84 件 (*36)			107,823.31	
18年度補遺(3月)				
今市 (201010)	寺島	個人住宅建設	500	遺跡なし
吳羽富田 (201160)	北代字布口	吳羽山公園整備にかかる代替地の確認	457	遺跡なし
豊田中吉原 (201197)	豊田本町	N T T ドコモ基地局アンテナ設置	4	遺跡なし
中富居 (201206)	中富居	宅地	2,997	中世土師器
宮町 (201210)	宮町	市道宮町 6 号線道路改良工事	480	中世溝、中世土坑／中世珠洲、中世土師器
富山城跡 (201397)	本丸	赤祖父門移設工事	19	江戸土壙／なし
黒崎種田 (201479)	黒瀬	駐車場、資材置場造成	1,058	遺跡なし
黒崎種田 (201480)	黒崎	アパート建築	1,133	遺跡なし
八日町 (201481)	八日町	自己用住宅建築、農道(私道)拡幅	751	遺跡なし
上野井田 (201521)	上野	介護施設建設工事	264	遺跡なし
田伏・佐野竹 (201584)	水橋田伏	墓地造成	735	遺跡なし
富崎 (362050)	婦中町富崎	一般国道 472 号道路改良工事に伴う農地改良	1,800	弥生後～終土坑、弥生後～終溝、弥生後～終ピット／弥生後～終弥生土器
千里D (362142)	婦中町千里	一般国道 472 号道路改良工事に伴う農地改良	290	中世土師器

2 北代縄文広場管理

北代縄文広場を市民に公開し、活用するため、管理運営を長岡校下自治振興会に委託しています。今年度も縄文広場では企画展や冬まつりなどの行事が行われました。(p 2 参照)

3 史跡安田城跡管理

史跡安田城跡を市民に公開し、活用するため、埋蔵文化財センターが管理運営を行っています。

史跡安田城跡は、富山市婦中町安田地内に所在し、全国的に珍しい中世の平城として昭和56年2月に国史跡に指定されました。

平成2～4年度に整備を行い、平成5年5月13日から、「史跡 安田城跡」として公開しています。

ここには、「安田城歴史の広場」「土壙展示館」「安田城跡資料館」等の施設があり、県内外から多くの方が訪れています。入場者数は平成18年度7,773人、平成19年4月から平成20年2月末までは9,303人です。



史跡 安田城跡

安田城歴史の広場では、本丸・二の丸・右郭が復元されており、本丸にある土壙展示館には、剥ぎ取り保存した土壙断面を展示し、土壙構築の様子を伝えてています。

安田城跡資料館では、出土品や城の歴史的背景を紹介した映像を見ることができ、2階には遺跡が一望できる遺跡見学室があります。

平成19年度はミニ企画展「富山市の中世城館(2)小出城跡」(平成19年5月30日～10月28日)、「富山市の中世集落(2)小倉中稻遺跡」(平成19年11月1日～平成20年4月20日)を開催しました。

また史跡活用の一環として、平成5年度から「安田城 月見の宴」が地元朝日地区の住民により催され、小学生による武者行列やよさこい、花火大会等が行われています。今年度の参加者は2,000人でした。

4 婦中埋蔵文化財資料館管理

婦中埋蔵文化財資料館を市民に公開し、活用するため、埋蔵文化財センターが管理運営を行っています。

婦中埋蔵文化財資料館では、婦中地域の発掘調査で出土した遺物及び市民の方から寄贈された民具を展示しています。

平成19年度は、常設展「史跡王塚・千坊山遺跡群展」を引き続き催したほか、企画展として「発掘速報展2006」巡回展

(平成19年5月15日～6月3日)、ミニ企画展「王塚・千坊山遺跡群とその時代(3)

—富山市八尾町館本郷II遺跡—」(平成19



婦中埋蔵文化財資料館

年6月5日～11月18日)、「王塚・千坊山遺跡群とその時代(4)—富山市豊田大塚・中吉原遺跡—」

(平成19年11月20日～平成20年5月11日)を開催しました。

入場者数は平成18年度683人、平成19年4月から平成20年2月末までは444人です。

5 展示・普及

(1) 発掘速報展

「発掘速報展2006 国づくりのリーダーたち Part 2」巡回展

富山市考古資料館

平成19年4月3日～5月13日

富山市婦中埋蔵文化財資料館

平成19年5月15日～6月3日

富山市大沢野総合行政センター

平成19年6月5日～7月1日

富山市八尾コミュニティセンター 平成19年7月4日～7月30日
「発掘速報展2007 山河との共生～先人たちのくらし～」
 富山市役所1階多目的ホール 平成20年3月24日～3月28日 入場者数641人
 主旨：遺跡は、先人たちのくらしが山や川などの自然と共にあったことを語りかけてくれます。
 展示では、“住む”“作る”“葬る”といった先人たちの日々のくらしと自然とのかかわりをお伝えしました。19年度に行った富嶠遺跡ほか5遺跡の出土品を展示しました。

(2) 遺跡現地説明会

- ①富山城石垣工事 平成19年4月14日 参加者80名
- ②富山城跡（試掘確認調査） 平成19年6月16日（2回実施）
参加者100名
- ③北押川B遺跡・北押川C遺跡・御坊山遺跡
平成19年7月21日 参加者160名
- ④富嶠遺跡 平成19年9月29日 参加者100名
- ⑤百塚遺跡 平成19年10月6日 参加者170名
- ⑥富山城跡 平成19年11月23日（2回実施）
参加者120名



百塚遺跡現地説明会

(3) 展示

- ①奥田小学校ふるさと考古教材展示室
 - i 常設展「奥田周辺の古代人の暮らし」 平成19年6月19日～平成20年3月31日
- ②北代縄文広場富山市内遺跡発掘速報コーナー展示
 - i ミニ企画展「大沢野地域の縄文遺跡(2)～春日遺跡～」 平成19年4月20日～7月18日
 - ii 夏季企画展「縄文人の精神文化—富山市出土の石棒と石冠展一」 平成19年7月20日～10月28日
 - iii ミニ企画展「山内賢一コレクション展」 平成19年11月2日～平成20年3月16日
 - iv ミニ企画展「富山地域の縄文遺跡(2)～開ヶ丘中山III遺跡～」 平成20年3月22日～7月13日
- ③婦中埋蔵文化財資料館
 - i ミニ企画展「王塚・千坊山遺跡群とその時代(3)-富山市館本郷II遺跡-」 平成19年6月5日～11月18日
 - ii ミニ企画展「王塚・千坊山遺跡群とその時代(4)-富山市豊田大塚・中吉原遺跡-」 平成19年11月20日～平成20年5月12日
- ④安田城跡資料館
 - i ミニ企画展「富山市の中世城館(2)小出城跡」 平成19年5月30日～10月28日
 - ii ミニ企画展「富山市の中世集落(2)小倉中稻遺跡」 平成19年10月30日～平成20年4月20日
- ⑤その他
 - i 悠久の森2007「日本へのはるかなる動物の旅「縄文の動物たち」」
富山市ファミリーパーク自然体験センター 平成19年9月29日～9月30日
 - ii 共催「考古資料で見る東薬寺の宝篋印塔と大山地域の分布調査」
富山市大山歴史民俗資料館 平成20年2月19日～5月6日

(4) 資料貸出

- ①新潟県津南町農と縄文の体験実習館「なじょもん」 秋季企画展「火焔土器前夜」
 - 会期 平成19年9月1日～10月8日
 - 貸出資料 鏡坂I遺跡 縄文土器8点
- ②富山市陶芸館 館蔵企画展「灰と釉薬」
 - 会期 平成19年9月7日～11月5日
 - 貸出資料 室住池V窯跡 須恵器1点、柄谷南遺跡 須恵器3点、中名II遺跡 濱戸1点
- ③島根県立古代出雲歴史博物館 企画展「弥生王墓誕生～山陰に王が出現した時～」
 - 会期 平成19年10月12日～12月16日
 - 貸出資料 富嶠墳墓群 弥生土器4点、鏡坂墳墓群 弥生土器2点、千坊山遺跡 弥生土器3点、鍛冶町遺跡 弥生土器5点、千坊山遺跡群 写真及びデータ6点

④高岡市福岡歴史民俗資料館 第20回特別展「埋もれていた仏教展」

会期 平成20年2月23日～3月23日

貸出資料 堀I遺跡 越前1点、宮町遺跡 石造物3点、金屋南遺跡 石造物5点、清水堂南遺跡 石造物1点、水橋金広・中馬場遺跡 石造物3点、明神遺跡 瓦塔2点、富山城跡 石造物2点、安養寺遺跡 石造物5点

⑤高岡市ウイング・ウイング高岡 第8回高岡市埋蔵文化財展「万葉の時代」

会期 平成20年3月8日～3月16日

貸出資料 栢谷南遺跡 瓦3点、米田大覚遺跡 石帶3点（石鈎丸鞘1点、石鈎巡方2点）、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡 石帶1点（石鈎丸鞘1点）、墨書き土器1点、瓦1点

(5)講演・研究発表

古川知明 大山歴史民俗研究会総会「富山城の歴史について—石垣修理から—」

平成19年5月12日 富山市大山文化会館

藤田富士夫 「富山市公民館連絡協議会定期総会記念講演（古代の飛越回廊—神通川をめぐる交流史）」
平成19年5月22日 富山市民プラザ

古川知明 19年度県民考古学講座第3回「富山城の石垣調査から」

平成19年8月5日 富山県埋蔵文化財センター

藤田富士夫 第41回富山県公立学校事務研究発表会（古代の婦負王国と日本文化）

平成19年8月23日 富山県教育文化会館

古川知明・小川幹太 越中史壇会19年度総会「富山城下町絵図の変遷と発掘調査による検証」

平成19年8月26日 富山県教育文化会館

藤田富士夫 「第8回宮坂英式記念尖石縄文文化賞受賞者あいさつ（尖石の思い出と最近の研究二題）」
平成19年10月6日 長野県尖石縄文考古館

藤田富士夫 「ヒスイ文化フォーラム2007「ヌナカワを探る」（万葉集「ヌナカワの底なる玉」をめぐって）」
平成19年10月20日 新潟県ヒスイ王国館

堀沢祐一 環日本海交流史研究集会「日本海域における古代の祭祀—木製祭祀具を中心として—北陸地方II富山県」

平成19年10月26日～10月27日 財団法人石川県埋蔵文化財センター

藤田富士夫 「第四回南中国及近隣地区古代文化研究（日本列島における2個一対の玦飾組成に関する基礎的試論）」

平成19年11月22日 香港中文大學中國考古藝術研究中心・博物館

藤田富士夫 「平成20年度富山考古学会総会研究発表会（縄文人の数字認識と“算術”的発見）」

平成20年1月27日 ポルファート富山

藤田富士夫 「アワコウコ楽連続公開講座（縄文装身の世界を探る一块飾とその社会ー）」

平成20年2月3日 徳島県立埋蔵文化財センター・総合センター

藤田富士夫 「新保校区ふるさとづくり推進協議会講演会（新保の遺跡から見た越中古代史）」

平成20年2月23日 富山市新保文化会館

小黒智久 富山県埋蔵文化財センター企画展「とやま発掘物語—その始まりの頃—」関連事業発掘調査報告会「古墳出現期の墓と集落 富山市百塚遺跡」

平成20年2月24日 富山県立図書館

鹿島昌也 第8回高岡市文化財展「万葉の時代」関連事業記念フォーラム「万葉の遺跡を掘る」個別報告「おやこんな所に古瓦が？—富山市栢谷南遺跡と仏教文化の浸透」

平成20年3月11日 高岡市生涯学習センター

(6)講座

①富山市民大学

郷土の歴史

藤田所長	縄文人の「玉文化」と北陸	5月10日
堀沢主査学芸員	古代越中国の役所とまじない	5月24日

流域の考古学

藤田所長	井田川流域（八尾地区）	4月24日
中本主任学芸員	神通川流域（大沢野地区）－神通峡の遺跡－	5月15日
野垣学芸員	神通川流域（富山地区） －弥生時代後期～古墳時代前期の集落と古墳－	6月5日
小松主査学芸員	常願寺川流域（大山地区）－花切遺跡について－	6月19日
細辻主任学芸員	山田川流域（婦中地区）	7月3日
堀沢主査学芸員	神通川流域（八尾地区）	9月4日
中本主任学芸員 (大沢野文化会館)	神通川流域（大沢野地区）	9月18日
野垣学芸員	白岩川流域（富山地区）	10月2日
小松主査学芸員	熊野川流域（大山地区）－東黒牧上野遺跡について－	10月16日
細辻主任学芸員	井田川・神通川流域（婦中地区）	11月6日

②市役所出前講座

1. 小林主査学芸員 「遺跡からみた富山の歴史(熊野地区周辺の遺跡について)」
熊野校下ふるさとづくり推進協議会 (熊野小学校4・5年生)
富山市熊野地区センター 平成19年7月31日 140名
2. 藤田所長 「遺跡からみた富山の歴史(長岡の歴史—縄文から近世まで—)」
長岡校下ふるさとづくり推進協議会
富山市長岡公民館 平成19年8月19日 28名
3. 藤田所長 「遺跡からみた富山の歴史(上条地域の古代史あれこれ)」
北馬場公民館 富山市水橋北馬場公民館 平成19年8月19日 41名
4. 小林主査学芸員 「遺跡からみた富山の歴史(新庄、広田、藤ノ木周辺の遺跡について)」
富山市公民館連絡協議会第三ブロック協議会 (新庄、広田、藤ノ木)
富山市新庄地区センター 平成19年9月8日 60名
5. 小林主査学芸員 「遺跡からみた富山の歴史(熊野地区周辺の遺跡について)」
熊野校下ふるさとづくり推進協議会
富山市熊野地区センター 平成19年10月10日 50名
6. 鹿島主任学芸員 「発掘調査からみた小出城跡の様相」(『小出の中世を語る』講演会)
上条ふるさとづくり推進協議会
富山市水橋小出公民館 平成19年10月14日 100名
7. 古川主幹学芸員 「遺跡からみた富山の歴史(富山城と城下町の発掘調査から)」
富山市統計調査員会 富山市役所会議室 平成20年2月28日 38名

③展示解説(講座)

1. 小林主査学芸員 「大山地域の分布調査について」(企画展「考古資料で見る東薬寺の宝篋印塔と大山地域の分布調査」講座) 富山市大山歴史民俗資料館 平成20年3月22日
2. 小松主査学芸員 「東薬寺の宝篋印塔について」(企画展「考古資料で見る東薬寺の宝篋印塔と大山地域の分布調査」講座) 富山市大山歴史民俗資料館 平成20年3月29日

その他の普及事業

①社会に学ぶ14歳の挑戦 小林主査学芸員・鹿島主任学芸員

- ・東部中学校 (参加者2名) 平成19年6月18日～6月22日
出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験
- ・三成中学校 (参加者2名) 平成19年7月2日～7月6日
出土品整理・北代縄文広場管理・遺跡発掘調査業務の体験
- ・山室中学校 (参加者2名) 平成19年7月9日～7月13日



14歳の挑戦(大山地域分布調査)

出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験

・吳羽中学校（参加者5名） 平成19年10月1日～10月5日

　　北代縄文広場管理・遺跡発掘調査業務の体験

・奥田中学校（参加者2名） 平成19年10月1日～10月5日

　　出土品整理・北代縄文広場管理業務・大山地域分布調査の体験

②射水市観光ボランティア・婦中町観光ボランティア交流会 細辻主任学芸員

　　射水市観光ボランティア・婦中町観光ボランティア（40名） 平成19年5月10日

　　於：婦中埋蔵文化財資料館

③古里小学校社会科見学「校外学習」 細辻主任学芸員

　　古里小学校6年生（38名） 平成19年5月16日　於：婦中埋蔵文化財資料館

④富山市郷土史研究会遺跡見学 細辻主任学芸員

　　富山市郷土史研究会（20名） 平成19年6月20日

　　於：王塚古墳・六治古塚墳墓・常楽寺・婦中埋蔵文化財資料館

⑤下轡田児童会「勾玉作り」 鹿島主任学芸員・細辻主任学芸員

　　下轡田児童会親子（60名） 平成19年7月14日　於：婦中町下轡田公民館

⑥熊野校下ふるさとづくり推進協議会遺跡現地見学 堀内主任学芸員

　　熊野校下ふるさとづくり推進協議会・熊野小学校6年生（90名） 平成19年9月20日

　　於：若竹町遺跡発掘現場

⑦研修会参加等

　　文化庁・兵庫県主催平成19年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会 小黒主任学芸員

　　平成20年1月10日～1月12日

　　独立行政法人奈良文化財研究所研修「堅穴建物遺構調査課程」 堀内主任学芸員

　　平成20年2月3日～2月8日

⑧新聞記事掲載（平成19年4月～平成20年2月末）

2007, 4, 13 「婦中に県内最大級中世墓群・常楽寺裏山」（北日本）

2007, 4, 15 「石垣の構造や特徴学ぶ 修復工事現場で見学会 富山城址公園」（富山）

2007, 4, 15 「富山城の石垣に理解 修復工事現場で見学会」（北日本）

2007, 4, 16 「婦中に県内最大級の中世墓群 被葬者解明が焦点」（北日本）

2007, 4, 16 「古里歴史ロマン・翠尾I・南部I遺跡」（北日本）

2007, 5, 6 「石おのや矢じり出土品を紹介・北代縄文広場」（北日本）

2007, 5, 6 「時空を超えたおくりもの11・縄文人の食べ物（小竹貝塚）」（北日本）

2007, 5, 21 「古里歴史ロマン・柄谷南遺跡」（北日本）

2007, 6, 1 「ふるさと風土記928・富山市五福地区（金屋南遺跡）」（北日本）

2007, 6, 7 「滴・富山城調査精力的に（古川知明）」（北日本）

2007, 6, 15 「富山城の水路遺構発見 堀と神通川つなぐ」（北日本）

2007, 6, 15 「富山城跡水路を初確認 旧神通川と堀結ぶ」（富山）

2007, 6, 17 「水路跡や石垣に关心 富山城跡で現地説明会」（富山）

2007, 6, 17 「富山城の水路遺構 江戸末期堀と神通川結ぶ？」（読売）

2007, 6, 18 「古里歴史ロマン・妙川寺遺跡」（北日本）

2007, 6, 23 「こだま・「お地蔵さん」は供養塔」（北日本）

2007, 6, 27 「達人と見る魯山人と岡本太郎展② 考古学者 藤田富士夫さん」（北日本）

2007, 7, 1 「ニュース質問箱・富山城跡の水路とは（藤田富士夫）」（富山）

2007, 7, 4 「談論自由席・まじないは生活の潤滑油（堀沢祐一）」（北日本）

2007, 7, 7 「「歴史学習」と「自然共生」2エリアで整備へ 婦中の王塚・千坊山遺跡群」（北日本）

2007, 7, 16 「古里歴史ロマン・下邑東遺跡」（北日本）

2007, 7, 18 「平安の炭窯・製鉄炉跡発見 富山・北押川B遺跡」（北日本）

2007, 7, 18 「スクランブル・「武士の素顔」発掘 富山市中心市街地の出土品」（北日本夕刊）

2007, 7, 20 「武家屋敷跡で出土 刀装具など展示 富山市郷土博物館」（読売）

2007, 7, 23 「製鉄炉や炭窯に理解 富山・御坊山、北押川遺跡」（富山）

2007, 7, 23 「解説のページ・炭窯跡など発見 古代婦負の生産拠点 北押川B遺跡」（北日本）

2007, 8, 1 「歴史に思いはせ古里の遺跡学ぶ 熊野公民館で講演会（小林高範）」（北日本）

2007, 8, 5 「時空を超えたおくりもの14・六治古塚」（北日本）

2007, 8, 6 「縄文土器作り難しい 富山神通LC小中学生が体験・北代縄文広場」（北日本）

2007, 8, 14 「古い天神信仰の形態 富山市郷土博物館企画展「武家屋敷を探る」」（富山）

2007, 8, 29	「石棒と石冠 70 点展示・北代縄文広場」(北日本)
2007, 9, 3	「立山連峰に感動 (伊集守道)」(北日本)
2007, 9, 12	「尖石縄文文化賞 富山の藤田さん受賞 (藤田富士夫)」(北陸中日)
2007, 9, 16	「灰と人のかかわり紹介 民俗民芸村で合同企画展」(北日本)
2007, 9, 17	「古里歴史ロマン・花切遺跡」(北日本)
2007, 9, 22	「ふるさと風土記 1022・富山市神明地区 (羽根下立遺跡)」(北日本)
2007, 9, 23	「わが心の一冊・考古学ノートー失われた古代への旅 (藤田富士夫)」(北日本)
2007, 9, 28	「3世紀の住居跡発見 周辺から大量土器 婦中・富崎遺跡」(北日本)
2007, 9, 30	「弥生時代末の集落跡見学 婦中・富崎遺跡」(富山)
2007, 10, 4	「発掘土器や柱跡に弥生、古墳期へ思い、富崎遺跡で説明会」(北陸中日)
2007, 10, 5	「大規模集落を形成か 新たに方墳5基確認 富山・百塚遺跡」(富山)
2007, 10, 5	「神通下流域に古墳群 大型の方墳出土 富山・百塚遺跡」(北日本)
2007, 10, 13	「身近な遺跡学び地域の歴史理解 熊野ふるさと推進協議会 (小林高範)」(北日本)
2007, 10, 16	「古里歴史ロマン・直坂遺跡」(北日本)
2007, 10, 17	「小出城の歴史学ぶ 町おこし講演会 (鹿島昌也)」(北日本)
2007, 10, 30	「王塚・千坊山遺跡群を再認識 婦負の国フォーラム」(富山)
2007, 11, 19	「古里歴史ロマン・安田城跡」(北日本)
2007, 11, 20	「古代越中理解深めて 弥生フォーラム記録集を発刊」(北日本)
2007, 11, 22	「築城前に武士の城館か 室町期の刀装具出土 富山城址公園発掘調査」(富山)
2007, 11, 22	「築城前 武士の館存在か 600 年前地層からうるし椀も 富山城跡」(北陸中日)
2007, 11, 22	「築城以前は…室町後期の屋敷 富山城址公園発掘調査」(諫壳)
2007, 11, 22	「室町時代 城館存在か 遺構・刀装具が出土 富山城址公園で発掘調査」(北日本)
2007, 11, 24	「発掘の成果解説 富山城跡で説明会」(富山)
2007, 12, 3	「滴・歴史解き明かしたい (堀沢祐一)」(北日本)
2007, 12, 7	「わがまち賛歌・千里地区 (富山市婦中町) 常楽寺の研究に情熱」(富山)
2007, 12, 22	「07回顧 考古学 (鹿島昌也)」(北日本)
2007, 12, 30	「わがまち賛歌・富山市神明・羽根下立遺跡」(富山)
2008, 1, 24	「整備活用、保存 2エリアに分け管理 王塚・千坊山遺跡群」(北日本)
2008, 1, 24	「策定委が保存計画を報告書 王塚・千坊山遺跡」(富山)
2008, 1, 25	「『縄文鍋』味わって・きょう北代で冬まつり」(北日本)
2008, 1, 27	「左義長で住民交流・北代・縄文冬まつり」(北日本)
2008, 1, 27	「縄文鍋が人気・富山・北代」(富山)
2008, 2, 1	「ふるさと風土記 1112・富山市豊田地区 (豊田大塚遺跡)」(北日本)
2008, 2, 3	「時空を超えたおくりもの 20・器の補修跡 (蓮華寺遺跡)」(北日本)
2008, 2, 16	「石塔下から大量の礫石経・富山の東葉寺」(北陸中日)
2008, 2, 20	「貴重な考古資料紹介 磯石経や土器・大山歴史民俗資料館」(北日本)
2008, 2, 22	「古代の儀式伝える出土品・婦中埋蔵文化財資料館」(北日本)
2008, 2, 24	「地域の遺跡、歴史を語る 富山・新保で講演会 (藤田富士夫)」(富山)
2008, 2, 27	「先人の生活に思いはせ 大山歴史民俗資料館で企画展」(富山)

6 遺跡地図管理

富山市内の埋蔵文化財包蔵地の総数は1,006箇所、面積は69,090,083m²（平成20年2月末現在）です。これは富山市全域の面積1241.85k m²の約5.56%にあたります。これらの埋蔵文化財包蔵地は下記の地図に登載され、埋蔵文化財センターをはじめ、市の開発部局、市立図書館（平成20年6月まで休館中）、各教育行政センターで閲覧することができます。

- ①『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地図(改訂版) 1. 旧富山市域』平成17年4月
 - ②『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地図(改訂版) 2. 旧大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村域』
 - ③『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地図(改訂版) 3. 旧大沢野町域』平成19年3月
- 平成19年度に分布調査や試掘確認調査により新規登録及び遺跡範囲の変更等があった埋蔵文化財包蔵地は次のとおりです。

1. 新規登録遺跡（大山地域分布調査以外）

- ①三田古墳 (No.361087) 400m² 直径18m、高さ2.5mの円墳
- ②千里源蔵谷中世墓群 (No.362159) 28,000m² 県内最大級の中世墓群

2. 遺跡範囲の変更等（大山地域分布調査以外）

- ①上新保遺跡 (No.201497) 220,000m² 試掘確認調査による遺跡範囲の拡大

3. 大山地域分布調査

①新規登録

No.	遺跡名	所在地	種別	面積(m ²)	時代(時期)
1	中大浦遺跡(302072)	中大浦、田畠 上大浦	散布地	105,000	縄文(晩)、奈良、平安 鎌倉～室町、近世
2	福円寺跡(302073)	中大浦	寺跡	600	中世～近世
3	東福沢渓遺跡(302074)	東福沢字渓割	散布地	2,200	奈良～平安
4	牧野遺跡(302075)	牧野	散布地	28,000	平安、鎌倉、室町、戦国 近世
5	文珠寺折戸遺跡(302076)	文珠寺字折戸割	散布地	12,000	縄文、近世
6	文殊寺中坪遺跡(302077)	文殊寺字中坪割	散布地	10,000	平安、鎌倉～室町、近世
7	上滝不動尊境内(302078)	上滝字滝野沢割 上滝字陳林割	磨崖仏	300	中世～近世
8	大山上野D遺跡(302079)	大山上野割	散布地	12,000	縄文
9	大山上野C遺跡(302080)	大山上野割	散布地	6,000	縄文
10	大山上野B遺跡(302081)	大山上野割	散布地	17,000	旧石器、縄文(前・中) 平安、近世
11	中地山遺跡(302082)	中地山	散布地	13,000	鎌倉～室町、近世
12	本宮上本遺跡(302083)	本宮字上本割	散布地	11,000	鎌倉～室町、近世
13	本宮塚(302084)	本宮	塚	1,000	中世～近世
14	長棟鉛山跡(302085)	長棟	鉱山跡	3,870,000	近世

②範囲変更、位置変更、名称変更、削除

1	302001	馬瀬口遺跡	西側に範囲拡大12,000m ² 、名称変更	16	302028	大山上野A遺跡	名称変更
2	302002	中番遺跡	名称変更	17	302033	東福沢瀬戸谷A遺跡	名称変更
3	302007	欠番(勝福寺墓地遺跡)	削除	18	302034	東福沢瀬戸谷B遺跡	名称変更
4	302009	東黒牧上野東塚	北側に位置訂正300m ²	19	302036	東福沢瀬戸谷C遺跡	名称変更
5	302011	東黒牧上野E遺跡	名称変更	20	302037	東福沢寺寄遺跡	東側に範囲拡大6,500m ² 、名称変更
6	302012	東黒牧上野H遺跡	名称変更	21	302038	史跡五輪塔	南側に位置訂正50m ² 、名称変更
7	302013	東黒牧上野D東遺跡	名称変更	22	302041	日尾遺跡	名称変更
8	302014	東黒牧上野F遺跡	名称変更	23	302053	元本宮寺跡	西側に位置変更60,000m ²
9	302015	東黒牧上野C北遺跡	名称変更	24	302054	花切遺跡	北側に範囲拡大52,000m ²
10	302016	東黒牧上野G遺跡	名称変更	25	302055	亀谷銀山跡	南東側に範囲拡大21,700,000m ²
11	302017	東黒牧上野B遺跡	名称変更	26	302056	欠番(勝光寺跡)	削除
12	302023	文珠寺角地遺跡	南側に範囲縮小13,500m ² 、名称変更	27	302067	東黒牧上野I遺跡	名称変更
13	302024	欠番(金岡家墓地遺跡)	削除	28	302070	東黒牧上野D西遺跡	名称変更
14	302025	中滝山遺跡	東側に範囲変更100,000m ²	29	302071	東黒牧上野C南遺跡	名称変更
15	302026	大川寺西遺跡	周辺に範囲拡大20,000m ²				

7 研究

(1) 小研究会（会場：埋蔵文化財センター会議室）

1. 望月精司氏（小松市教育委員会）

「小松市の遺跡と埋蔵文化財保護行政」 平成19年6月18日

2. 大西顕氏（財団法人石川県埋蔵文化財センター）

「古代祭祀遺跡の調査」 平成19年7月18日

3. 森 隆氏（富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所）

「北陸新幹線関連遺跡発掘調査について—富山市新堀西遺跡、
水橋金広・中馬場遺跡」 平成20年1月31日

4. 永井三郎氏（富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所）

「県営公害防除特別土地改良事業地内発掘調査について—富山市羽根下立遺跡」 平成20年2月13日



小研究会

5. 藤田所長

「今後の埋蔵文化財行政のあり方について」

堀内主任学芸員

「奈良文化財研究所研修受講報告—豎穴建物遺構調査課程」 平成20年3月12日

(2) 論文・報告・紹介 (2007, 4~2008, 3) *富山市内の遺跡に関するものも含みます。

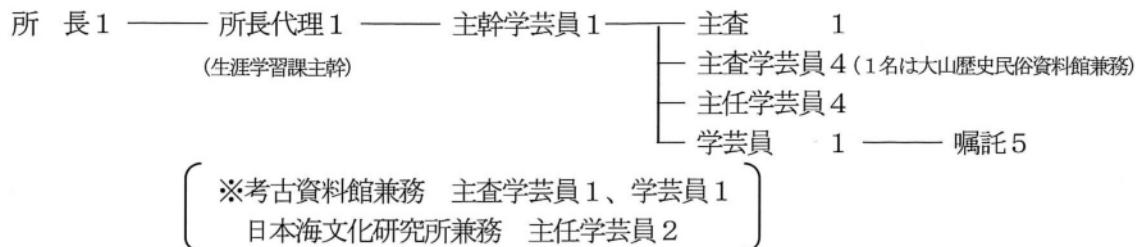
- 伊集守道 2008, 2 「東薬寺信徒の分布状況とその内部構造—過去帳を素材に—」『大山の歴史と民俗』第11号 大山歴史民俗研究会
- 伊藤雅文 2007, 3 「北陸の横穴墓研究ノート」『石川考古学研究会々誌』第50号 石川考古学研究会
- 稻垣宗昭・小杉醇・経沢信弘・野田正美・深川悦子・森喜美 2008, 3 「富山南金屋と御服金屋～富山市日本海文化研究所ゼミナール学習会「とやまの鉄物を探る」の記録～」『富山市日本海文化研究所報』第40号 富山市日本海文化研究所
- 小田由美子 2007, 9 「都市・城館研究の最新情報 北陸」『都市をつなぐ—中世都市研究13』新人物往来社
- 小黒智久 2007, 3 「平成17年度シンポジウム 北陸の古墳編年の再検討 「越中における古墳編年」」『阿尾島田古墳群の研究－日本海中部沿岸域における古墳出現課程の新研究－』 富山大学人文学部考古学研究室
- 小黒智久 2007, 12 「勅使塚古墳と王塚古墳」『大境』第27号 富山考古学会
- 小黒智久 2007, 12 「書評 『黄泉之国 再見～西山古墳街道～』」『大境』第27号 富山考古学会
- 金龍教英 2007, 3 「戦国史・真宗史からみた中世の金屋周辺地域」『富山市日本海文化研究所報』第38号 富山市日本海文化研究所
- 金龍教英 2007, 9 「富崎金屋・富山町金屋・五福（金屋）について」『富山市日本海文化研究所報』第39号 富山市日本海文化研究所
- 佐伯哲也 2007, 7 「遺構から読み取る富崎城の歴史」『北陸の中世城郭』第17号 北陸城郭研究会
- 重杉俊樹 2007, 7 「桃井直常と布市城」『北陸の中世城郭』第17号 北陸城郭研究会
- 高橋浩二 2007, 7 「富山市古沢塚山古墳の再測量とその評価」『富山大学人文学部紀要』第47号 富山大学人文学部
- 武内淑子 2007, 3 「呉羽山に埋もれた七面堂、宝塔、寺院等の建立地について」『富山市日本海文化研究所報』第38号 富山市日本海文化研究所
- 武内淑子 2007, 9 『呉羽山の七面堂』 自費出版
- 棚元理一・藤田富士夫 2007, 12 「棚元日記にみる終戦直後の富山県考古学界の動向」『大境』第27号 富山考古学会
- 寺崎満雄編 2007, 7 『願海寺城』 自費出版
- ㈱東都文化財保存研究所 2008, 3 「富山市金屋南遺跡出土金属製品の蛍光X線分析」『富山市考古資料館報』 No.45 富山市考古資料館
- 布尾和史 2007, 9 「北陸地方 新崎式・上山田式」『津南シンポジウムIII 火焰土器前夜』津南町教育委員会ほか
- 野垣好史 2007, 9 「灰と朽」『富山市民俗民芸村連携企画展 灰』 富山市民俗民芸村
- 藤田富士夫 2007, 5 「玉製品・玦飾」『季刊 考古学』第99号 雄山閣
- 藤田富士夫 2007, 5 「古代越中国新川郡の「道」と「郷」に関する若干の考察」『日本史学年次別論文集 古代1 2004（平成16）年版』学術文献刊行会編集 朋文出版
- 藤田富士夫 2007, 5 「輝く婦負王国」『越中讃歌』 北日本新聞社編集局
- 藤田富士夫 2007, 5 「物語性文様から“縄文神話”を読み解く試み—新潟県朝日遺跡の方形鉢をテーマとして—」『敬和学園大学人文社会科学研究年報』第5号 敬和学園大学人文社会科学研究所
- 藤田富士夫 2007, 6 「未開人の「三を底」とする数字認識に関する若干の考察—縄文人の数字資料を端緒として—」『郵政考古紀要』第41号 大阪・郵政考古学会
- 藤田富士夫 2007, 11 「日本列島における2個一对の玦飾組成に基づく試論」『第四回南中国及近隣地

- 区古代文化研究 古代香港与東亞論文或摘要』 香港中文大學中國考古藝術研究中心
 藤田富士夫 2007, 11 「縄文人の記数法と“算術”の発見」『列島の考古学Ⅱ』 渡辺誠先生古稀記念論文集刊行会
- 藤田富士夫 2008, 2 「縄文装身の世界を探る—玦飾とその社会—」『アワコウコ楽連続公開講座 装身具の考古学—いにしえの装いと彩り—』 (財)徳島県埋蔵文化財センター
- 藤田富士夫 2008, 3 「蒼海への熱き夢乗せて」「翡翠の魅力—縄文心性から沼名川の姫神へ—」『翡翠を求めて～縄文丸木舟日本海をゆく—さくら丸航海記—』 桜町石斧の会
- 藤田富士夫 2008, 3 「万葉集「ヌナカワの底なる玉」をめぐって」『ヒスイ文化フォーラム2007 ヌナカワヒスイ』 糸魚川市教育委員会・ヒスイ文化フォーラム事務局
- 藤田富士夫 2008, 3 「富山市古沢遺跡発掘調査報告（昭和47年度）」「富山市覗ヶ森貝塚発掘調査報告（昭和56年度）」『富山市考古資料館紀要』第27号 富山市考古資料館
- 古川知明 2007, 5 「富山城石垣改修から（その5 石材の墨書）」『連絡紙』第194号 富山考古学会
- 古川知明 2007, 5 「鼬川と富山城下町—絵図からみた近世前期の河道復元—」『富山史壇』第152号 越中史壇会
- 古川知明・宮野秋彦 2007, 6 「縄文期高床倉の温湿度環境に関する実験的研究（第1報）—富山市北代遺跡の復元高床建物について—」『日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集』 日本文化財科学会
- 古川知明 2007, 7 「慶長期富山城内郭の系譜—越中における聚楽第型城郭の成立と展開—」『富山史壇』第153号 越中史壇会
- 古川知明 2007, 8 「近世初期富山城下町の構造と変遷—城郭構造論からみた初期富山町—」『北陸都市史学会誌』第13号 北陸都市史学会
- 古川知明・高梨清志 2007, 8 「富山県の動向」『中世史・考古学情報』第6号 伊勢中世史研究会
- 古川知明 2007, 11 「岩瀬の先史と岩瀬天神遺跡」『東岩瀬郷土史会会報』第105号 東岩瀬郷土史会
- 古川知明 2007, 11 「富山・富山城跡(城下町)」「富山・願海寺城跡」『木簡研究』第29号 木簡学会
- 古川知明 2007, 12 「富山市西新庄の薄地蔵—戦国末の板碑形三界万靈塔—」『大境』第27号 富山考古学会
- 古川知明・小川幹太 2008, 3 「富山城下町絵図の変遷と発掘調査による検証」『富山史壇』第155号 越中史壇会
- 古川知明・伊集守道 2008, 3 「医王山東薬寺の文化四年銘宝篋印塔下埋納礎石経の調査」『富山市考古資料館紀要』第27号 富山市考古資料館
- 堀沢祐一 2007, 10 「北陸地方Ⅱ 富山県」『平成19年度 環日本海交流史研究集会「日本海域における古代の祭祀—木製祭祀具を中心として—」発表要旨・資料集』 財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 堀沢祐一 2008, 3 「越中国における古代の祭祀」『石川県埋蔵文化財情報』第19号 財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 堀沢祐一 2008, 3 「富山市呉羽町姉倉比賣神社保管遺物について」『富山市考古資料館報』 No.45 富山市考古資料館
- 堀沢祐一 2008, 3 「富山市花ノ木C遺跡の祭祀具について」『富山市考古資料館報』No.45 富山市考古資料館
- 山内賢一・藤田富士夫 2007, 12 「小杉町二ツ山古墳群第3号墳に関する昭和37年の調査について」『大境』第27号 富山考古学会

8 発掘調査報告書等

- No.21. 富山市富崎遺跡発掘調査報告書(2008, 3)
- No.22. 富山市八町II遺跡発掘調査報告書(2008, 3)
- No.23. 富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書(2008, 3)
- No.24. 富山城跡試掘確認調査報告書(2008, 3)
- No.25. 富山市内遺跡発掘調査概要III(2008, 3)
- No.26. 富山市北押川B遺跡発掘調査報告書(2008, 3)
- No.27. 富山市北押川C遺跡・御坊山遺跡発掘調査報告書(2008, 3)
- No.28. 富山市任海宮田遺跡発掘調査報告書(2008, 3)
 - ・北代縄文通信 第23号(2007)
 - ・北代縄文通信 第24号(2008)
 - ・平成18年度「婦負の国 弥生フォーラム」記録集 「四隅突出型墳丘墓を探る～首長と地域社会～」(2007, 10)
 - ・富山市の遺跡物語(富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報) No.9(2008, 3)
 - ・史跡王塚・千坊山遺跡群保存管理計画策定報告書 (2008, 3)

9 埋蔵文化財センター組織



事業費

- ① 埋蔵文化財調査費 116, 490千円
- ② 体制整備・一般管理費 114, 509千円
- ③ 普及活動費 800千円
発掘速報展開催
- ④ 遺跡・史跡保護管理費 18, 054千円
北代縄文広場管理

平成18年度「婦負の国 弥生フォーラム」記録集刊行のお知らせ

「四隅突出型墳丘墓を探る～首長と地域社会～」を発刊しました。

価格：1冊 500円

送料：1冊 210円、2冊 290円（3冊以上の場合は別途お問い合わせください）

購入希望の方は、冊数を明記のうえ、書籍代金（現金書留あるいは定額小為替）と送料（切手）を同封の上、埋蔵文化財センター宛に送付ください。

ご不明な点は、埋蔵文化財センターまでお問い合わせください。

この記録集は、富山市考古資料館、婦中埋蔵文化財資料館でも販売しています。

申込先 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091

富山市愛宕町1-2-24

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

E-mail : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp



藤田富士夫

(埋蔵文化財センター所長)

1 はじめに

筆者は、ここ数年来、縄文人の数字認識問題にとりこんでいる。これまで高度な脳力を示す資料について何篇か論じてきた(藤田2007)。なかでも富山市の浜黒崎野田・平榎遺跡出土の「円盤形土製品」は高度な縄文人の脳力を直截に示している。

ここでは、それについての出土状況や資料の報告を主として行ないたい。

2 遺跡の位置と調査

遺跡は、常願寺川左岸の河口近辺に位置する。富山市浜黒崎の野田と平榎にまたがる108,000m²にもおよぶ広大な地域に、「浜黒崎野田・平榎遺跡」が展開している。縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世の重複遺跡である。

円盤形土製品は、富山市浜黒崎（1区）1465番地に設けられた調査区1—2の西端域から出土した（第1図）。標高は約3.80mを測る。北側にJR北陸本線をはさんで浜黒崎字五百苅が所在する。そこはかねてより畑地で、昭和25年の富山考古学会調査による「富山縣石器時代遺跡地名表」（森1951）では「富山市浜黒崎 野田遺跡」とされ、「土器、石鎌、石斧、三頭石斧、曲玉、玉斧、石棒、石錐、石鎌、砥石」が出土するとされている。当該品の出土地点は、そこに南接している。

この一帯が、県営低コスト水田農業大区画ほ場整備事業の対象地となったため、平成6年度と7年度に試掘調査と発掘調査が行なわれた（小林・堀沢1995、鹿島1996）。円盤形土製品（報告書では「土版」）は平成7年度の発掘調査で出土した（鹿島1996）。

3 円盤形土製品の出土地点

遺物の注記は、「NH X3 Y-268 950912」とある。「NH」は、浜黒崎野田・平榎遺跡を表す。「X3」は公共座標の東西軸82403を、「Y-268」は南北軸10268を示している。「950912」は出土年月日。深度は、共伴した打製石斧（遺物番号118）から類推して「L（標高）2.8m」前後と思われる。出土層位は12層と15層との境目辺り。本調査区での遺物は主に12層、15層、16層から出土し、その包含層は30cm厚さとなる。円盤状土製品は、その中間にあたる層から出土した。第2図にその位置を黒塗りで表示した。調査区は、西側に向かって緩やかに傾斜し、そこは旧河川とされている。遺物包含層の様相は、旧河川跡を利用した土器廃棄場と見られている。包含層からは縄文後期後葉の八日市新保2式土器、晚期前葉の御経塚3式土器、晩期中葉の中屋式土器が出土している（鹿島1996）。円盤形土製品の厳密な伴出土器は不明だが、後期に属する可能性が高いと調査担当者は見ている。

4 円盤形土製品

円盤形を呈する（第3図・写真）。表面は黒褐色で、きめ細かな胎土を有し焼成は良好。直径4.2cm、最大厚さ1.4cm、重さ26.0gの完形品である。垂下孔を2個有するが、成形段階で紐づけの行為があったようで孔縁に紐線（紐擦れではなく）がくつきりと残っている。

表裏に横位沈線を配する。それに区画されて、円形刺突文=列点（小石の記数法）で①から⑪までの数字が配されている（以下、本品の数字を便宜的に○表記する）。

ここでは、私の読み解きを示しておきたい。

（1）第3図右図の検討 右図の面には、数字①、②、④、⑥、⑨、⑪が付されている。これらの数字の総数は33になる。

①が、垂下孔二個の中間にあって、他の列点よりもひと際尖銳である。②が、中央の両縁に

ある。④の見極めは複雑で解説が要る。それは垂下孔が設けられた部位の横位帯一杯にほぼ等間隔で付されている。他の列点よりもやや太く粗野なタッチで付されている。この列点群は、一旦、認識できると、他との区別は容易に行なえる。⑥が、最下帯に横位列点で表現されている。⑨が、中央帯の上位列点群で表現されている。⑪が、⑨の下位に横位列点群で表現されている。①、②、⑥、⑨、⑪は横位配置の列点で分かりやすく付している。

(2) 第3図左図の検討 左図の面には、数字③、⑤、⑦、⑧、⑩が付されている。これらの数字の総数は33になる。

③が、垂下孔二個の上位に付されている。⑤の見極めが難しい。それは③と垂下孔二個の間に、上下不規則に付されている。③の列点群よりも少しこそな列点群で横位に付されている。それは垂下孔二個の上に位置する沈線のはみ出し粘土によって、左から4点目と5点目とがつぶれているが、列点痕跡が認識できる。他の列点が横位直線状に付されるのに対して⑤が上下不規則配置を成すのは、垂下二孔が先行して施されていて、それを避けて⑤群が付されたためと考えられる。一方、左から2点目は左の垂下孔穿孔粘土によって切られている(穿孔は右図面側から行なわれている)。左垂下孔の穿孔粘土が横位沈線に乗っている。

左垂下孔と列点の関係から、(a) 列点→横位沈線→垂下孔穿孔の順が推測できる。

一方、⑤群の不規則配置は垂下二孔の制約を受けていると見られ、かつ右垂下孔と列点の関係性から、(b) 垂下孔穿孔→列点→横位沈線の順が類推できる。

これらの観察が正しいとすれば、(a) と (b) のように施工順序が異なる。理由は定かでないが、右垂下孔を基点として左右で時間差を有している。横位沈線が左垂下孔から右垂下孔まで二条でやや太いのに対して、右垂下孔から右端部までは一条で単一的である。横位沈線は、一気に引かれたものではなく、時間差を有するであろう。(a) と (b) の施工順序の異なりは、列点、横位沈線、垂下孔穿孔がそれぞれ一括実施されたのではなく、先に施された文様(列点)が、後に消え、最終段階で一部が再施工されるなどしたためと思われる。このような背景によって⑤が「不規則」を示すのであろう。⑤は「特別な施工」であるらしい。

⑦が最下帯に横位列点で、⑧が中央帯の上位列点群で、⑩が、⑧の下位に横位列点群で表現されている。⑦、⑧、⑩は横位配置で分かりやすい。

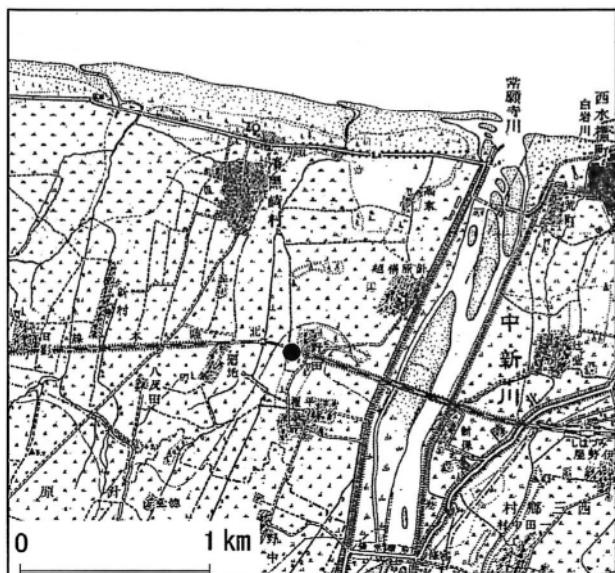
5 おわりに

本資料には、表裏に円形刺突文=列点(小石の記数法)で①から⑪までの数字が列点の無駄なく配されている。表面(第3図右)に数字①、②、④、⑥、⑨、⑪を付し、裏面(第3図左)に数字③、⑤、⑦、⑧、⑩を付している。表裏数字のそれぞれの和は33になる。合計66である。ちなみにこの配分を問題設定すれば、「自然数①から⑪までを左右二列に順番に並べて、それぞれの和が33となるような配置を示せ」となる。浜黒崎野田・平榎遺跡の円盤形土製品は、高度な算術を操る縄文人がいたことを示している。本品は縄文脳の具体資料として真に貴重であることは言うまでもない。

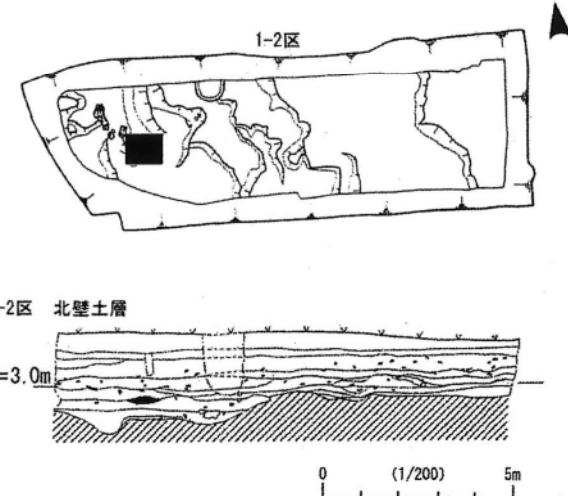
(調査を担当した富山市埋蔵文化財センターの小林高範主査学芸員から出土状況のご教示を得た。不備の諸点は、鹿島1996年報告など下記文献で補っていただければ幸いである。)

(参考文献)

- 小林高範・堀沢祐一 1995『富山市 浜黒崎悪地遺跡 野中新長幅遺跡 野田・平榎遺跡』
富山市教育委員会
鹿島昌也 1996『富山市 野田・平榎遺跡 野中新長幅遺跡 宮条南遺跡 高島島浦遺跡』
富山市教育委員会
藤田富士夫 2007「縄文人の記数法と“算術”的発見」『列島の考古学II』渡辺誠先生古稀記念論文集刊行会
森秀雄 1951『大昔の富山県』清明堂書店



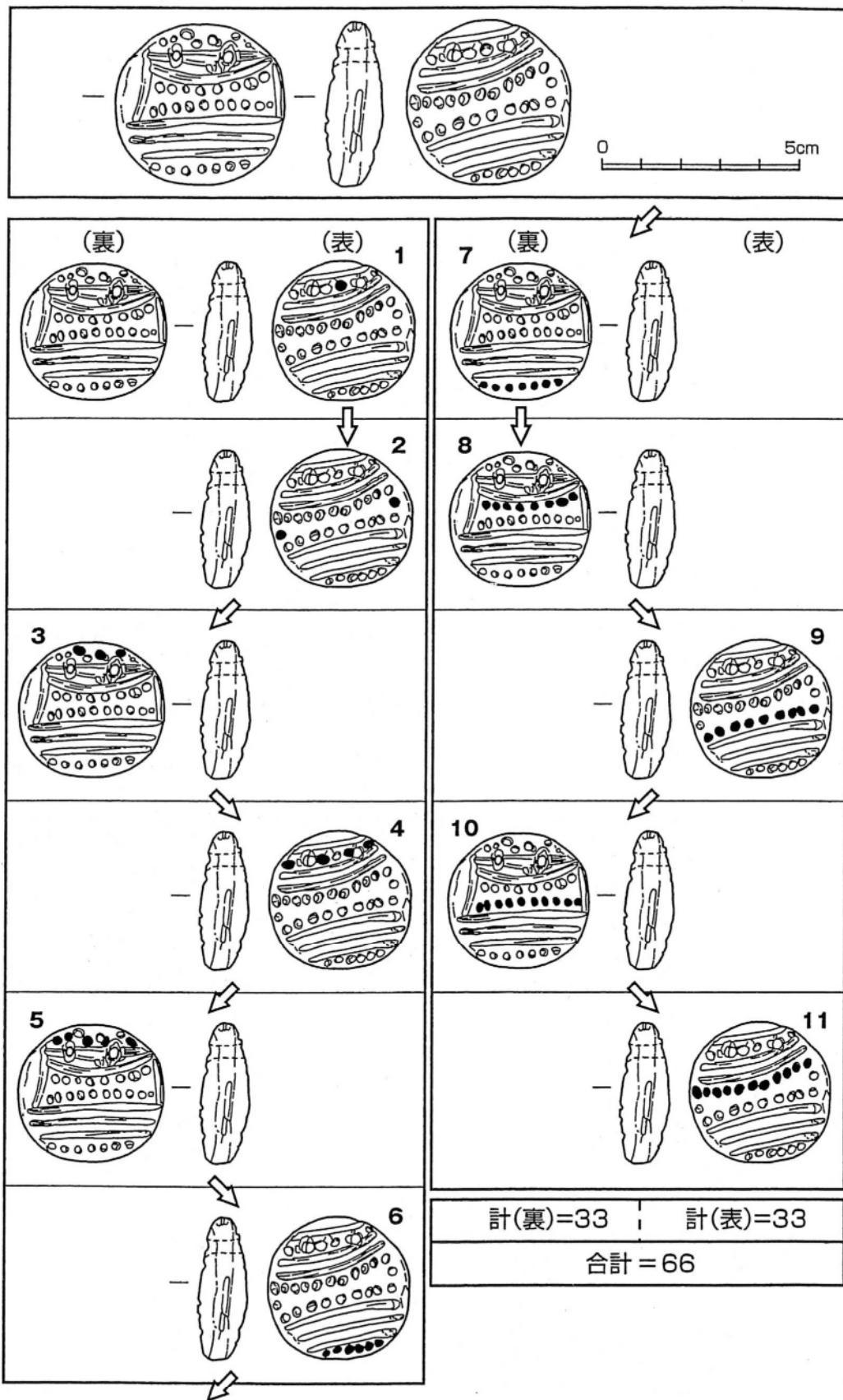
第1図 浜黒崎野田・平榎遺跡の
円盤形土製品出土位置図



第2図 調査1-2の円盤形土製品
出土位置と層位（黒塗り）



写真：左上（表）、右上（裏）、下（左上の二孔部分拡大）



第3図 富山市浜黒崎野田・平榎遺跡の円板形土製品（鹿島1996年を基に作成した。）

古川 知明

(埋蔵文化財センター主幹学芸員)

1 はじめに

平成18年秋、富山市埋蔵文化財センターが実施した富山市南部の大沢野地域における遺跡分布調査で、矢穴の穿たれた大石が発見された。その地点は、神通川が形成した中位河岸段丘上で、現在の神通川からは500m東に離れる（第1図）。矢穴石のある地点は、段丘崖から約10m離れた平坦な畠地である。周囲には旧河床礫とみられる小礫が広く分布する。

矢穴石は、長さ約2mほどの安山岩塊で、脇に割り取られた石の一部が残っている。発見時の写真では矢穴数個が石の中央にみられたが、コケを取って掃除したところ、矢穴以外にも加工痕が多数確認された。

この地点は、「下大久保九番遺跡」として、平成19年3月に遺跡地図に登載された。

2 矢穴石の概要

①規格 地表面に露出している矢穴石（第2図）は、東西に長く、最大長2.2m、最大幅1.3m、最大高0.75mである。形状からみて地中に埋まっている部分はさらに大きいと推定されたため、ピンポールを地中に刺して確認したところ、東西約2.5m、南北約1.6mの大きさであることを確認した。石の北西隅には、この矢穴石から割り取られたとみられる50×40cmの板状の石が残る（矢穴は未確認）。

②矢穴列 この石には28個の矢穴痕が認められ、A～Lの12の矢穴列が復元される（第3図）。各矢穴列には2個～数個の矢穴が1.5cm（5分）～3cm（1寸）の間隔を置いて並ぶ。

Aは未完成の矢穴で、彫込み初期のもの。石ノミで長方形に縁取って矢穴輪郭を形成した時点で放棄された。Bは、矢穴の彫込みを完了したが未割のもの。弧を描いて7個の矢穴が存在する。Cは図左側のN列の矢場取り目的とみられる。Dは4個の矢穴を穿ち、内2個の間を除去して溝状に連結した後、途中放棄したもの。E・F・Lは長軸方向に直線的な割取りを行った矢穴底面の痕跡。E-F間は15cm（5寸）、F-L間は9cm（3寸）である。G～Kは長軸直交方向に入れたもので、割取りあるいは矢場取り目的とみられる。

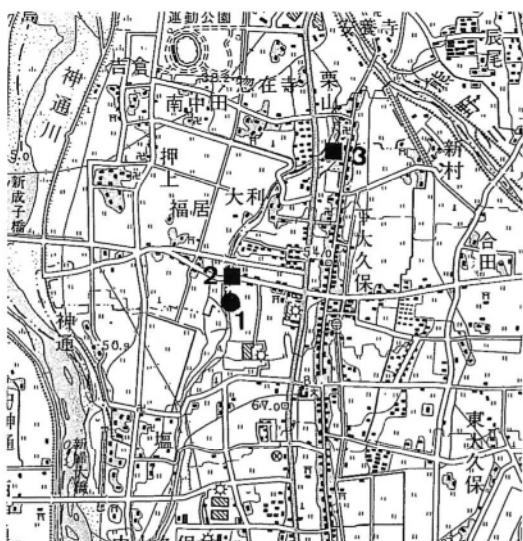
M～Oの3列の矢穴列は、矢穴と矢穴の間にある部分を取り去り、V字状の溝に整えたもの。「溝切」と呼称する。溝の側面は平滑な平面に整形している。N・Mは長さ1.06m（3尺5寸）でNは直角に折れて溝切が続く。O-N、N-M間は30cm（1尺）及び48cm（1尺6寸）である。EはMと重なり、M列作出に伴う矢穴底面である。E・D列の検証から、溝切は複数の矢穴を連結して作出したものであると理解できる。

③個別矢穴の形態 残存状況のよいB列の矢穴は、底面が狭くなり、石ノミ先端の痕跡を残す（写真4）。横断面形はV字形、平面形は台形を示す（写真7）。

3 矢穴石にみる石割技術と年代

このようにこの石には、B列のような矢穴列による割取技法Aと、矢穴列を連結して溝切する割取技法の2種類の割取技法Bが混在する。Bは直線的な割取りにのみ見られ、弧状の割取りには使用されない。これらは矢穴を深くするための矢場取加工の一一種とする見方もできようが、溝底は矢穴底面まで及んでいることから、むしろ溝彫りによって割取ラインを定めやすくしたものと理解すべきであろう。

これらにより割取られた石材は、薄い板状の石材で



第1図 位置図(1:50,000)

1. 矢穴石 2. 伝福居古墳 3. 伊豆宮古墳

ある。石垣石材ではなく、石造物あるいは階段等構造物の材料にされたと推定される。

矢穴による石割技術は鎌倉以来出現する⁽¹⁾が、顕著に認められるようになるのは城郭石垣築造に際して大量の規格石材調達の必要性が生じた織豊期以降である。北陸における城郭石垣編年は金沢城を中心に確立しており、金沢穴生が携わる石割技術系統における矢穴出現時期は概ね慶長期とみられている⁽²⁾。

本例から復元される矢穴+溝切技法による石割技術は、これまで県内では未確認であったが、新たに氷見市加久麻神社⁽³⁾、慶長期富山城石垣⁽⁴⁾に存在することを確認した。いずれも安山岩であるという点が共通する。しかし慶長期富山城石垣石材にみられる矢穴と比較すると、規格は近似するが、富山城では底面部分が一定の広さを確保しており（写真8）、加久麻神社も同様である。また中世期には矢穴平面が方形基調のものが多いとされ⁽⁵⁾、本例とは異なる。一方近代に



第2図 矢穴石実例図 (1:20)

おける矢穴は規格がほぼ半分になり、大型矢穴は消失する。

以上の検討から現段階での年代的位置づけは、近世以前の可能性が高いということにとどめておきたい。

4 矢穴石の存在から

矢穴石が神通川中流の河岸段丘上に所在する背景について検討する。この石は、周囲の状況から、段丘形成前の河床礫の残存物と判断することは困難であり、他の場所、具体的には神通川河床からここへ運び込まれた可能性が高い。

この河岸段丘沿いを北東方向へ約1.2km離れた富山市栗山地内には横穴式石室をもつ伊豆宮古墳が所在する。この古墳は7世紀前半の変形八角形古墳とされ⁽⁶⁾、低位段丘崖際に築かれるといった立地が矢穴石と共に通する。この古墳の天井石は花崗岩玉石で1石のみが残る。周囲に天井石とみられる1mほどの川原石があり、その表面にノミ跡が認められる。

矢穴石が所在する位置から約200m北東の地点には、かつて福居古墳があったとされるが、正確な出土地点は不明である。周辺においては7世紀中葉の伊豆宮古墳が初めて出現することから、福居古墳の存在は疑問視されるという見解もある⁽⁷⁾。

人工的に搬入されたとみられるこの矢穴石は、周囲の状況から搬入の契機を類推すると、後期古墳の横穴式石室天井石等として大きな川原石のまま持ち込まれた可能性が高い。その後古墳の封土が流出等して石室石材が露出する状況が生じ、石材獲得の素材として割り取られることになったと考えられる。この場合、伊豆宮古墳の前後の時期における新たな古墳の存在、あるいは疑問とされる福居古墳である可能性も考慮できよう。

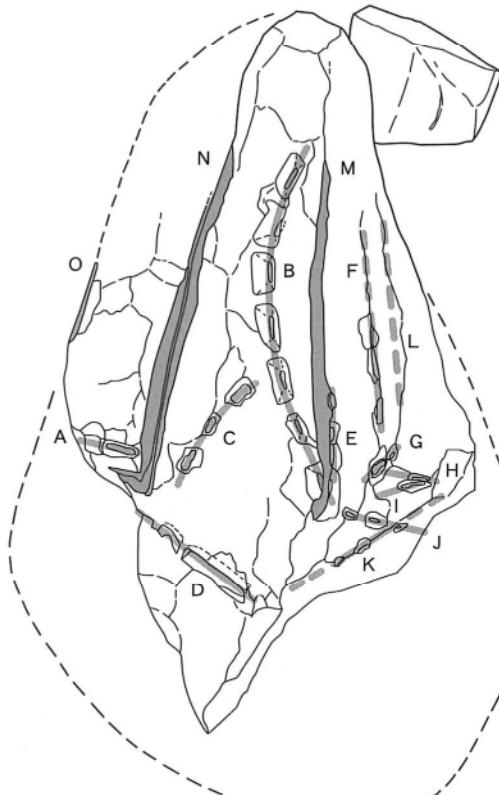
5 おわりに

この矢穴石の発見により、中・近世期のいずれかの段階とみられる新たな矢穴石割技術が確認できたが、その詳細な年代解明は不明なまま残された。今後は、矢穴石周囲の確認調査等による持ち込まれた原因解明と、その年代的位置づけを明らかにする作業が必要である。

本稿の作成にあたり、西井龍儀氏、藤田富士夫氏、富田和氣夫氏からご教示を得た。記して感謝の意を表します。

註

- (1) 石動山文化財調査団・氷見市教委 1989『国指定史跡石動山文化財調査報告書—八代仙ダム計画関連—』
- (2) 北野博司 2003「金沢城石垣の変遷1」『金沢城研究』創刊号 金沢城研究調査室ほか
- (3) 西井龍儀氏のご教示による。
- (4) 富山城では平成18年度実施の石垣解体調査で1石のみ確認されている。
- (5) 富田和氣夫氏のご教示による。
- (6) 藤田富士夫 1996「伊豆宮古墳の変形八角形墳試考」『富山市考古資料館報』No. 30
- (7) 小黒智久 2003「越中東部地域における初期須恵器」『富山市考古資料館報』No. 40



第3図 矢穴列の構造

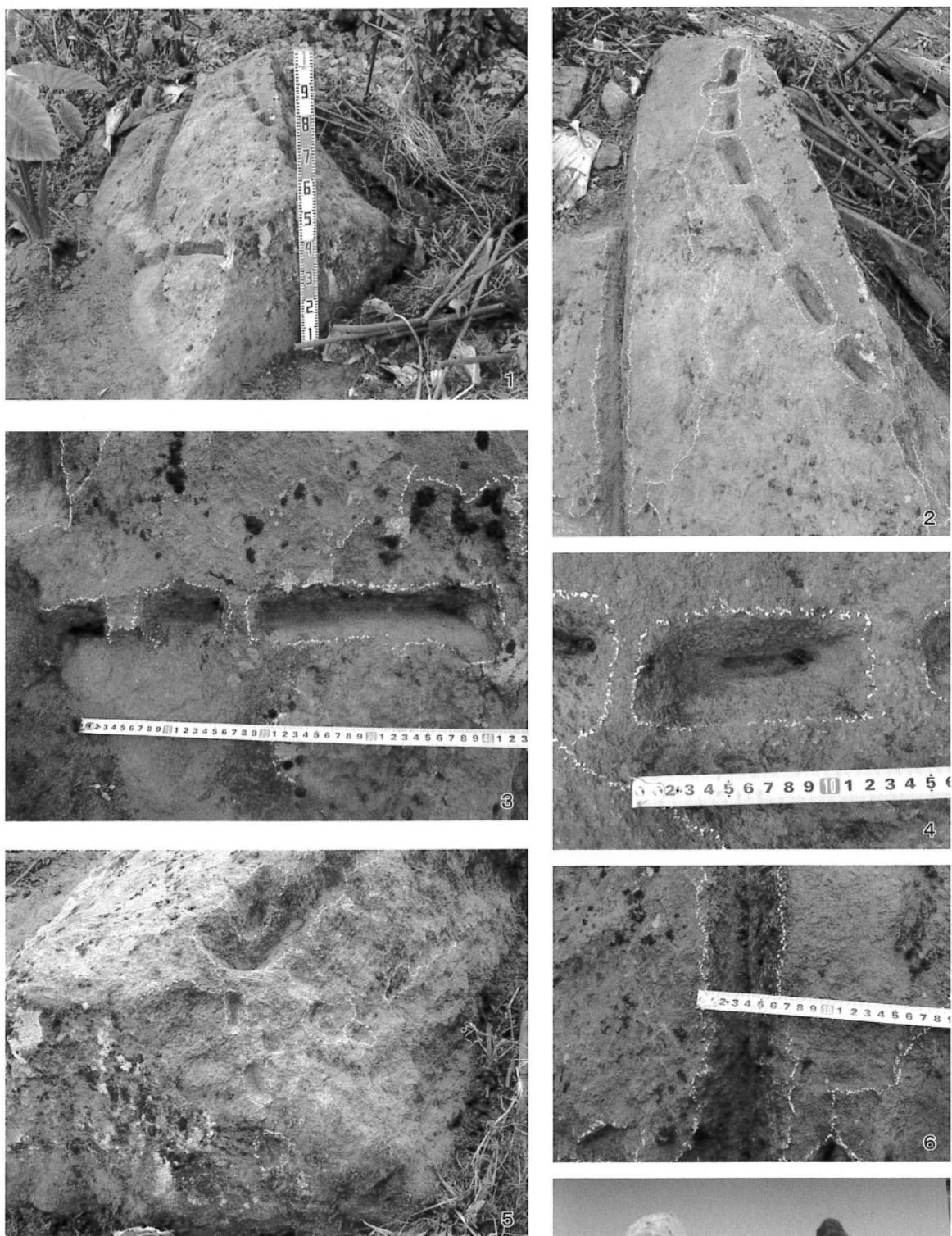


写真1 矢穴石近景

- 2 矢穴列Bと溝切N
- 3 連結中の矢穴列D
- 4 矢穴（B列中）
- 5 溝切M・矢穴列J
の周辺
- 6 溝切N部分
- 7 矢穴の粘土型
- 8 矢穴横断面の比較

(左：慶長期富山城石垣、右：下大久保矢穴列)

研究余話Ⅲ 富山市グランドプラザ検出の井戸 SE01について

堀内 大介

(埋蔵文化財センター主任学芸員)

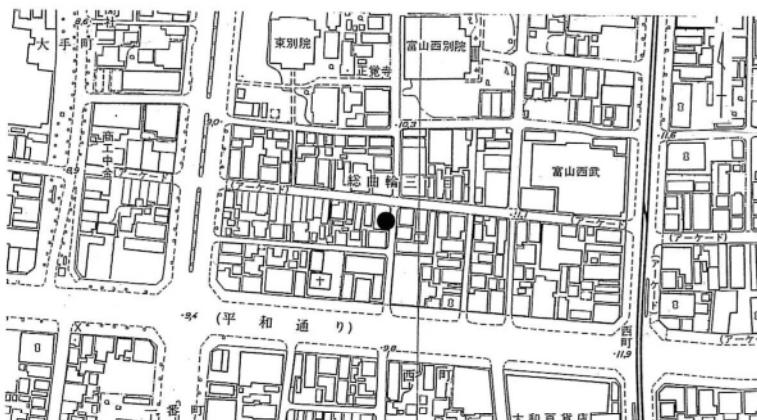
1 はじめに

富山城跡は西町・総曲輪地区市街地において再開発が計画され、平成16年4月にはグランドパーキング「CUBY」建設に伴う調査を行い、複数の井戸跡等が検出され、17世紀代の陶磁器類を多数出土した。調査部分は富山城下町絵図と比較すると、岩田宇兵衛屋敷と推定される。

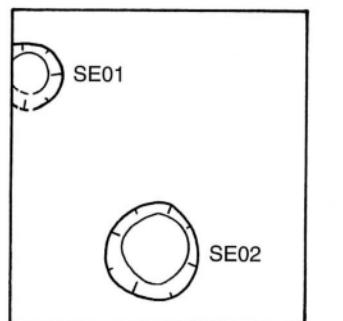
平成18年1月には再開発ビル「フェリオ」建設に伴う調査を行い、石組水路や排水溝等が検出され、17世紀～19世紀の陶磁器類、下駄、木札、武官を描いた板絵等の木製品等を多数出土した。富山城下町絵図と比較すると、石組水路は武家屋敷地と町屋敷地とを区画する背割下水に符合し、排水溝は天保期の武家屋敷境の溝と符合した。

今回の調査地は、「CUBY」と「フェリオ」の間に建設されたグランドプラザの建設に伴い、工事立会調査を行った。床下収納庫（可動式舞台）の工事箇所（南北8.8m、東西7.7mの長方形の掘削範囲、第1図）において、井戸2基が確認された。そのため、富山市都市再生整備課と富山市教育委員会埋蔵文化財センターとの間で埋蔵文化財保護について協議を行い、すぐに調査を行うことで合意し、調査を行った。調査は、平成18年10月4日から10月7日にかけて行った。

平成19年度には、出土した井戸側と鉤瓶を「高級アルコール法」にて保存処理を行った。



第1図 調査位置図 (1 : 50000)



第2図 遺構図 (1 : 200)

2 調査概要 (第2・3・4図)

今回2基の井戸が発見された場所は、元々は鉄筋コンクリート造の建物が建っていた場所であったため、本来の遺構検出面は建物基礎によって破壊されており、その他の遺構は検出されなかった。見つかった遺構が井戸であったので、深い部分である井戸下部が残存していた。

SE01は工事箇所北西部で見つかっており、G Lより2.8m下で検出した。南西部分の1/4は隣接する「フェリオ」の工事による搅乱のため破壊されていた。検出

面での掘方の平面形は円形で、直径は1.8m（西側は工事区外となる）、深さは約1.3mを測る。検出面より40cm下から井戸側が確認された。井戸側は円形で、直径約85cmを測る。井戸底に



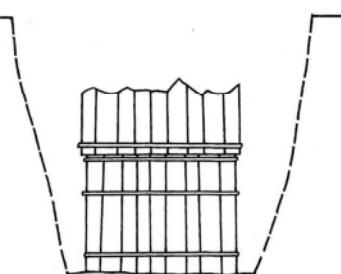
井戸側 (下段) 状況

水溜め施設は確認されなかった。

SE01は、宇野氏の分類に当てはめると、B 類桶積上げ井戸に分類され、桶は井戸専用の縦板組タガ巻きである。残存していた井戸側は2段確認されたが、上段は既に上部が腐食しており、下部約30 cmが残存していただけであった。上段と下段の重なりは約5 cmであった。側板を竹のタガ（一部のみ残存）で留めており、下から5 cmで1箇所確認できた。下段には27枚の側板が残存していた（表1）。側板は竹のタガで上（7 cm）、中（25 cm）、下（57 cm）3ヶ所を留める。上部から7～8 cmの位置で側板を木釘で繋ぎ合わせてある。井戸側は樹種同定の結果、ヒノキ科アスナロ属に分類される。

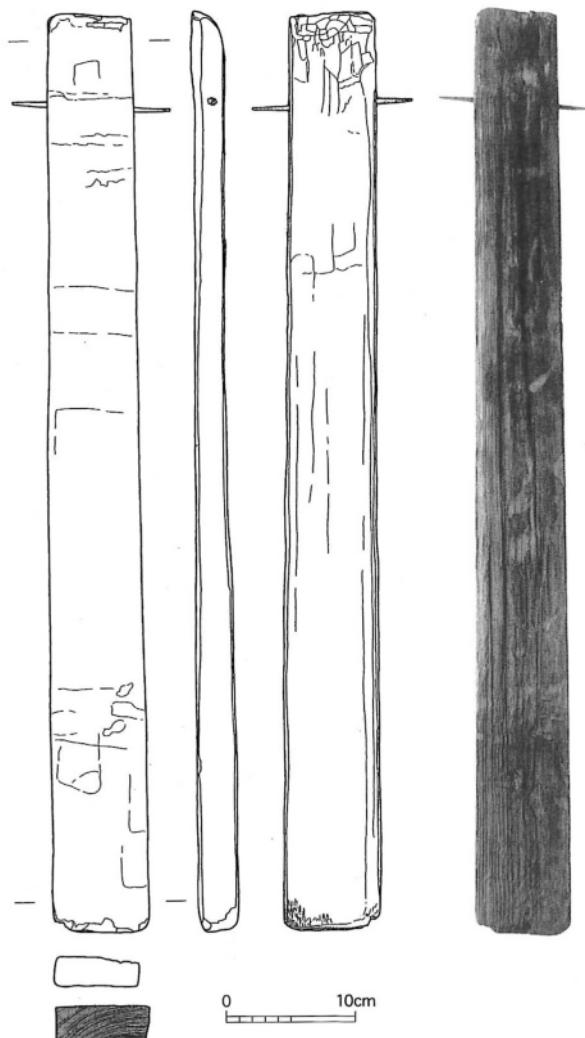
部位	幅(cm)		高さ (cm)	厚み (cm)
	上	下		
右①	8.5	9.3	72.5	2.8
	9.5	10.5		
右②	6.5	7.5	72.5	2.8
	8.8	10.0		
右③	9.7	11.0	72.5	2.8
	8.7	9.5		
右④	6.1	7.2	72.5	2.8
	6.9	7.8		
右⑤	10.5	10.9	72.5	2.8
	8.5	8.8		
右⑥	6.0	6.7	72.5	2.8
右⑦	10.5	11.9		
右⑧	6.3	7.2	72.5	2.8
右⑨	9.2	10.2		
右⑩	10.5	11.0	72.5	2.8
左①	7.2	8.0		
左②	11.5	12.0	72.5	2.8
	6.1	6.9		
左③	8.5	9.8	72.5	2.8
	9.2	10.5		
左④	6.8	8.5	72.5	2.8
	10.9	11.6		
左⑤	7.0	7.8	72.5	2.8
左⑥	10.4	11.1		
	6.8	7.5	72.5	2.8
左⑦	8.0	6.4		
左⑧	6.5	7.0		

表1 井戸側（下部）観察表
(○数字は取り上げ順番)



第3図 SE01井戸側断面図

SE02は工事箇所南部中央で見つかっている。検出面での掘方の平面形は円形で、直径は2.6 m、深さは約1.4mを測る。井戸底は、水溜めのために1段深く掘り窪められていた。水溜め部分で竹のタガが円形に確認され、何らかの水溜めの施設が据えられていたと考えられる。



第4図 井戸側（左⑤）実測図 (S=1/6)・写真

3 釣瓶について（第5図）

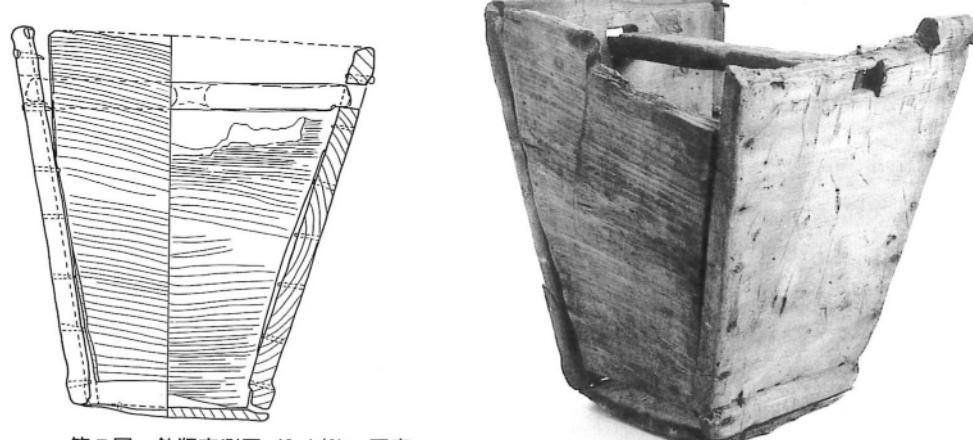
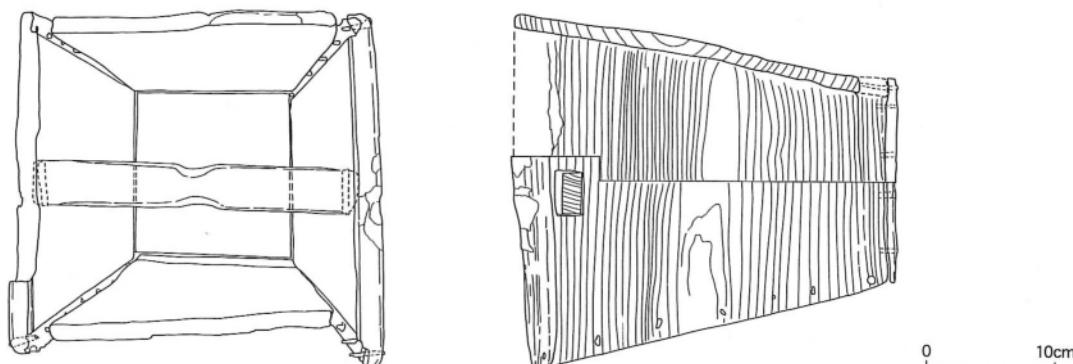
SE01の底から出土した。高さ31cmを測る。加工された側板と底板は木釘ないしは鉄釘で結合される。結合部分は一段薄く削られている。側板の口縁付近に方形孔が開けられ、取手が付けられていたと思われる（出土時、取手は外れていた）。取手は真ん中部分が抉られており、縄をかけるためと考えられる。樹種同定の結果、底板及び側板2枚はヤナギ科ハコヤナギ属、側板2枚はマツ科マツ属〔二葉松類〕、取手はブナ科ブナ属に分類され、各部位が異なる木材を使用して作られていることが分かった。

部位	縦 (cm)	横(cm)		厚み (cm)
		上	下	
底板	16.5	16.5		1.0
側板	30.3	28.5	16.5	1.7
	30.3	28.5	16.5	1.7
	28.0	23.8	12.3	1.3
	3.5	25.8		2.1

表2 釣瓶観察表



SE01 釣瓶出土状況



第5図 釣瓶実測図 (S=1/6)・写真

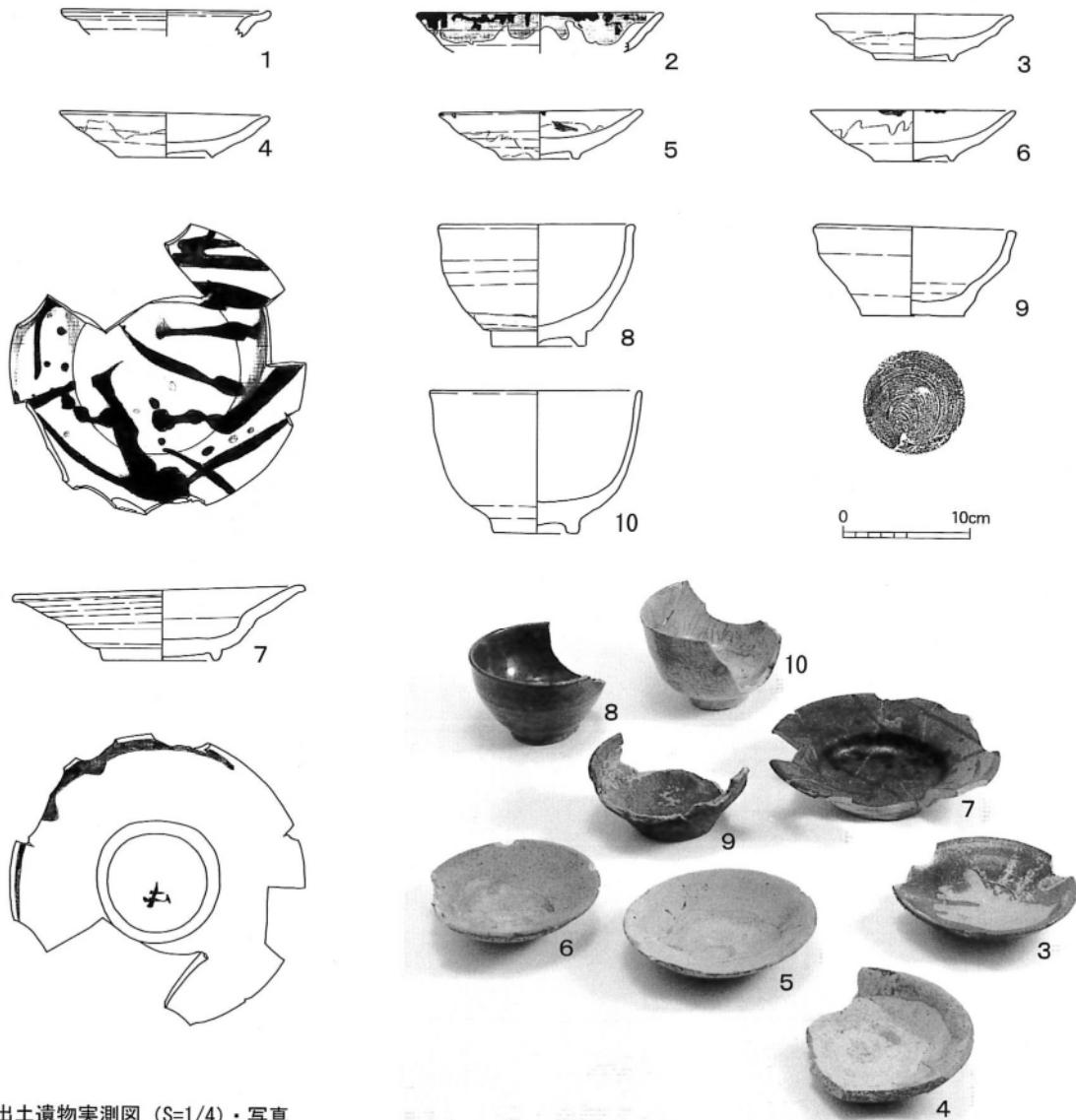
4 出土遺物について（第6図）

1は井戸の掘方、1以外は井戸側内出土である。1は井戸掘削時の混入とみられる。

1は瀬戸美濃の折縁小皿である。大窯後Ⅲ期（15世紀前半）に比定される。

2はかわらけである。口縁部に煤・タール痕が確認でき、灯明皿として使用していた。

3～9は越中瀬戸である。3～7は皿である。3～6は削り出し高台の丸皿で、内禿げ皿



第6図 出土遺物実測図 (S=1/4)・写真

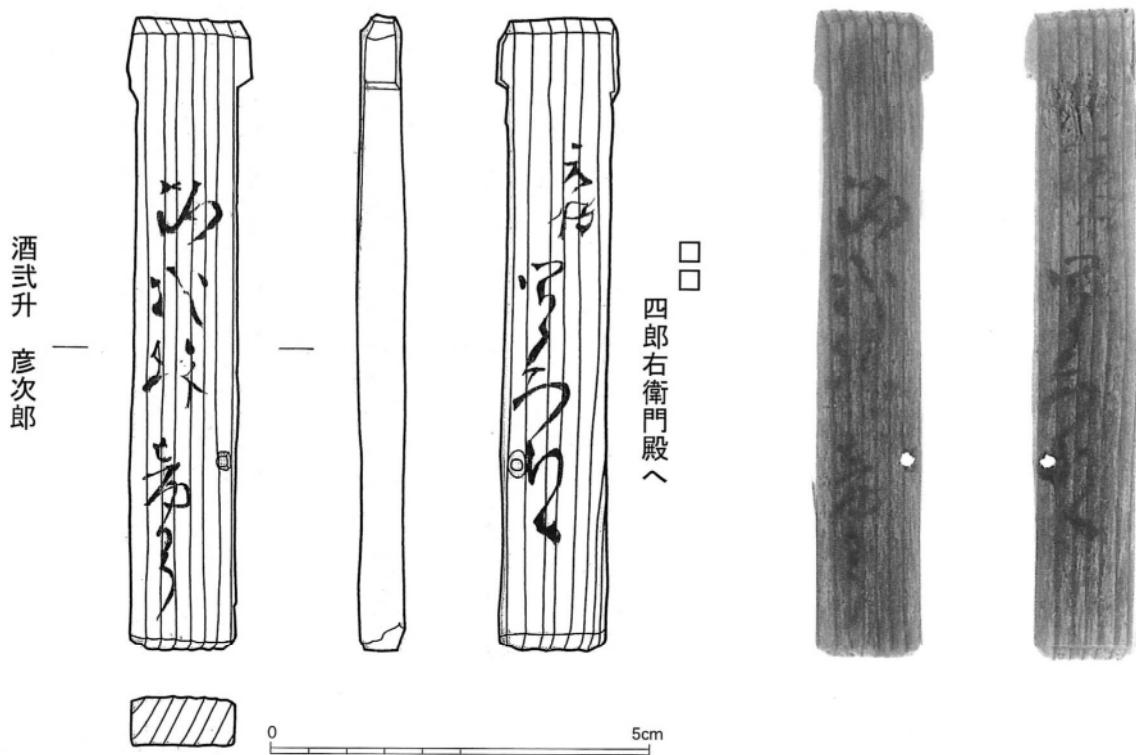
である。口径から大皿に分類される。外面体部下半から高台にかけては露胎である。3は鉄釉、4～6は灰釉を施される。3・4の見込み部分には重ね焼き痕が残る。5・6は口唇部に灯心油痕が残っており、灯明皿として使用していた。7は絵唐津風皿である。口径から特大皿に分類される。内面に鉄釉を使用して文様が描かれており、絵唐津を模倣したものと考えられる。外面高台内側に墨書で「中」の字が施されている。8・9は碗である。8は丸碗で、高台は輪高台である。外面体部下半から高台にかけては露胎であり、鉄釉が施される。9は底部糸切り痕が残る。内外面全面に鉄釉が施される。17世紀第2四半期～第3四半期に比定される。

10は唐津の碗である。高台は露胎とし、他は全面に透明釉が施される。細かい貫入が内外面全体に入る。見込み付近に重ね焼きの砂が付着する。1650～1690年代に比定される。

その他、伊万里・箸・建築部材等出土している。

5 木札について（第7図）

井戸側内から出土している。高さ8.4cm、幅1.4cm、厚さ0.6cmを測る。上部1cmが0.2cm分厚くなり、「T」字状を呈する。下半部に直径2mmの孔が開けられている。表に「□□ 四郎右衛門殿へ」、裏に「酒貳升 彦次郎」と墨書がある。彦次郎から四郎右衛門へ酒二升を送った際の荷札と考えられる。



第7図 木札実測図 (S=1/1)・写真

6 絵図・史料との対比

調査地は、『万治年間富山旧市街図』(1658～1661年)・『寛文六年十月御調理富山絵図』(1666年)では、吉田甚五兵衛屋敷、『御城内外御焼失御絵図面』天保年間(1830～1844年)・『越中富山御城下絵図』安政元(1854)年では町会所(町役前)に該当する。

吉田甚五兵衛は、貞享3(1686)年の『富山藩武鑑』では馬廻組普請奉行(式百石)とあり、元禄3(1690)年の『正甫公御代分限帳』では、小姓組目付(式百石)とある。天保9(1839)年の『富山藩士由緒書』では、吉田甚五兵衛良恕は明暦元(1655)年に金沢より御当地(富山)に引越してきたと記されている。

7まとめ

出土遺物や絵図・史料から見ると、17世紀第二四半期～第三四半期の富山藩成立前後の井戸であり、吉田屋敷に伴うものか、それ以前のもので吉田屋敷建築の際に廃棄されたものかもしれない。

本稿作成にあたり、宮田進一氏、浦畠奈津子氏の有益なご教示を得た。

(参考文献)

- 宇野隆夫 1989 「井戸考」『考古資料による古代と中世の歴史と社会』真陽社
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 総曲輪通り南地区市街地再開発組合・富山市教育委員会 2006 『富山城発掘調査報告書』
- (財)富山県文化振興財團埋蔵文化財事務所 1996 『梅原護摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)』
- 富山市教育委員会 2005 『富山市富山城跡発掘調査概要』
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』
- 堀内大介 2007 『近世富山城下町の暮らし』『富山市の遺跡物語』No.8 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 宮田進一 1997 『越中瀬戸の変遷と分布』『中・近世の北陸』

加藤達行

(埋蔵文化財センター所長代理)

前号で私は、中世の富山にもあの山椒大夫のような「長者」がいたと想像し、「富山城の位置は、中世の富山にとっても重要な地だったのだろうか？中世富山城以前に「長者屋敷」があったらなんて？」という夢い期待を述べた。

すると驚くなかれ、今年の富山城址の本丸搦手石垣南側の発掘調査現地説明会で「神保氏築城以前の武家屋敷跡の一部と考えられる遺構が確認された。」と報告された（本紙10頁参照）。

調査では、中世2期層から溝状の窪地・大型土坑・壁面が焼けた土坑・溝等が確認された。これらの年代については15世紀代（室町後期）と推定され、刀装具や漆器・陶磁器が出土し、武家の居館に関わる遺構と考えられている。また、穀類が大量に焼けていることから、失火あるいは争乱による火災があったことが想定される。この遺構が「長者屋敷」かどうかはわからないが、詳細については今後の調査が待たれるところである。

一方、この調査では中世1期について、平安前期以降の集落形成と水田の形成が推定されている。富山の地は、中世において富山郷とされ、太田保の一部であった。太田保を本拠とする太田氏の分割相続の過程で鎌倉時代には成立していたものであろう。

南北朝期、太田保のうち布市付近を拠点とした桃井直常とともに太田氏も没落し、太田氏の所領は、没収され、幕府（将軍）料所や幕府方諸武将らに給付された（『富山市史』通史編1987）。富山と一体化し、湊の役割を担った柳町は、永享2年（1430）に史料に初出する15世紀初頭以前であるされる（久保尚文『富山柳町のれきし』1996）。

富山と柳町が一体となり、太田や周辺地域が將軍や寺院、幕府諸将の所領となったことにより、これら領主の収益の他地域への輸送が必要となった。その積み出しのための湊の重要性が増したことなどが、中世都市として富山を生み出したものであり、時期としては、14世紀末から15世紀初頭頃とできよう。これ以前の富山郷はあくまでも太田保の一部であり、水田を中心とした農村地域と考えると発掘調査による中世1期の所見も合致するものであろう。

さて、太田保は、管領家の細川氏に伝領され、富山郷は、吉見氏から二尊院に寄進されていることが知られているが、実質は將軍料所であり、16世紀はじめには、土肥氏の領所となっていることから、守護畠山氏が支配権（代官職？）を持っていたと考えられる（久保氏より教示）。富山の現地を実際に支配していたのは誰か。具体的にはよく分からぬが、富山城付近にその拠点があったことも想像されよう。今後、発掘調査や文献研究のよって中世富山の「長者屋敷？」の主の誰かがわかつてくるかも。乞うご期待。

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第9号

平成20年3月17日

編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1丁目2-24

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

URL <http://homepage2.nifty.com/kitadai/> (北代縄文広場と兼用)

E-mail maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 大栄印刷株式会社